SYLLABUS 2021 講義要項 くすり・調剤事務科

SYLLABUS
講 義 要 項

2021

くすり・調剤事務科

学校法人 川口学園
早稲田速記医療福祉専門学校

学校法人川口学園 早稲田速記医療福祉専門学校

目　　次

利用の手引き

くすり・調剤事務科　　１年生……　1

くすり・調剤事務科　　２年生……　29

くすり・調剤事務科　　１年生

くすり・調剤事務科　2021年度生カリキュラム

科目区分		科　目　名	授業形態	1年次		2年次		合計	
履修方法	科目内容			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	基礎科目	書く技術・伝える技術	講義	2	30			2	30
		パソコン演習Ⅰ	演習	2	30			2	30
		パソコン演習Ⅱ	演習	2	30			2	30
		サービス接遇Ⅰ	講義	2	30			2	30
		サービス接遇Ⅱ	講義	2	30			2	30
		キャリアデザインⅠ	演習	2	30			2	30
		キャリアデザインⅡ	演習	2	30			2	30
		キャリアデザインⅢ	演習			2	30	2	30
		キャリアデザインⅣ	演習			2	30	2	30
	専門科目	応対の技術	演習	2	30			2	30
		医薬品基礎(人体の構造)	講義	2	30			2	30
		医薬品基礎(基礎と安全対策)	講義	2	30			2	30
		医薬品基礎(作用Ⅰ)	講義	2	30			2	30
		医薬品基礎(作用Ⅱ)	講義	2	30			2	30
		医薬品基礎(作用Ⅲ)	講義	2	30			2	30
		医薬品基礎(関係法規)	講義	2	30			2	30
		食品栄養学Ⅰ	演習	2	30			2	30
		食品栄養学Ⅱ	演習			2	30	2	30
		調剤事務Ⅰ	講義	2	30			2	30
		調剤事務Ⅱ	講義	2	30			2	30
		調剤事務Ⅲ	講義			2	30	2	30
		医薬品応用(基礎と人体の構造)	講義			2	30	2	30
		医薬品応用(作用Ⅰ)	講義			2	30	2	30
		医薬品応用(作用Ⅱ)	講義			2	30	2	30
		医薬品応用(関係法規と安全対策)	講義			2	30	2	30
		医薬品応用(演習)	演習			2	30	2	30
		サプリメントアドバイザーⅠ	講義			2	30	2	30
		サプリメントアドバイザーⅡ	講義			2	30	2	30
		東洋医学概論	講義	2	30			2	30
		病気とヘルスケア	講義	2	30			2	30
		漢方の知識	講義	2	30			2	30
		販売士の知識Ⅰ	講義			2	30	2	30
		販売士の知識Ⅱ	講義			2	30	2	30
		販売士の知識Ⅲ	講義			2	30	2	30
		OTC薬の基本と応対技術	演習			2	30	2	30
		薬店実習	実習			1	30	1	30
		校外見学Ⅰ	演習	2	30			2	30
		校外見学Ⅱ	演習			2	30	2	30
		美容基礎実習Ⅰ	実習	1	30			1	30
		美容基礎実習Ⅱ	実習	1	30			1	30
		美容基礎実習Ⅲ	実習	1	30			1	30
		美容基礎実習Ⅳ	実習	1	30			1	30
		美容知識Ⅰ	演習	2	30			2	30
		美容知識Ⅱ	演習	2	30			2	30
		化粧品の成分学	演習			2	30	2	30
		美容応用実習Ⅰ	実習			2	30	2	30
		美容応用実習Ⅱ	実習			2	30	2	30
		トータルビューティ	演習			2	30	2	30
		社会人としてのマナー＆コミュニケーション	演習			2	30	2	30
	関連科目	手話Ⅰ	演習			2	30	2	30
		手話Ⅱ	演習			2	30	2	30
		現場で使える外国語	演習			2	30	2	30
		POP広告デザイン演習	演習	2	30			2	30
		売り場のグラフィックデザイン演習	演習			2	30	2	30
		介護保険制度の仕組みと流れⅠ	演習			2	30	2	30
		介護保険制度の仕組みと流れⅡ	演習			2	30	2	30
		病院の仕組みと流れ	講義			2	30	2	30
		介護レクリエーション演習	演習			2	30	2	30
合　計				52	840	59	900	111	1,740

※くすり・調剤事務科の卒業には、修業年限以上在学し、1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	書く技術・伝える技術			担当教員		清水　唯史		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

文章作成の実践を行いつつ、ＳＰＩの解き方や考え方も学び、就職活動の適性試験などにも対応ができる科目である。

□授業の目的

ＳＰＩ（Synthetic Personality Inventory）とは、総合的な個性の評価を目的として開発された総合適性検査であり、年間１万 1,000 社が利用している。本科目では、ＳＰＩの基本知識と解き方をマスターし、希望する企業の採用試験を突破する力を養うことを目的とする。また、作文演習を通じて、社会人として必要な文章作成能力を涵養する。

□授業の到達目標

・ＳＰＩ総合検査を突破する力の獲得。
・文章作成能力の涵養。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		―
試験等	提出物	―
	作文	50
	随時試験	25
	定期試験	―
	平常の授業状況（　　）	25
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間数の 2/3 以上の出席（学則 27 条）を単位認定の前提とする。
・随時の演習、授業に取り組む姿勢に応じて成績を評価する。

□学生へのメッセージ

・非言語分野（理数系）、言語分野（国語系）のどちらにもしっかりと対応する力をつけよう。

□テキスト

・柳本新二『ドリル式ＳＰＩ問題集』永岡書店（2022 年度版）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・適宜プリントを配付する。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	科目オリエンテーション	「書く技術・伝える技術」の概要説明
2	ＳＰＩ非言語分野(1)	濃度
3	ＳＰＩ非言語分野(2)	速さ・距離・時間
4	ＳＰＩ非言語分野(3)	ものの値段と個数／定価・原価・利益
5	ＳＰＩ非言語分野(4)	割合と値段／仕事算
6	ＳＰＩ非言語分野(5)	表の読み取り／資料の読み取り
7	ＳＰＩ非言語分野(6)	確率のとらえ方／集合／推論
8	ＳＰＩ非言語分野(7)	ものの流れと比率／ブラックボックス
9	セルフメディケーション作文(1)	作文力を身につけるための講義・実践①
10	セルフメディケーション作文(2)	作文力を身につけるための講義・実践②
11	ＳＰＩ非言語分野(8)	グラフの領域
12	ＳＰＩ非言語分野(9)	論証
13	ＳＰＩ非言語分野(10)	立体の展開図・断面
14	ＳＰＩ言語分野(1)	同意語・反意語／二語の関係
15	ＳＰＩ言語分野(2)	文法・敬語／長文問題

科目名	パソコン演習Ⅰ			担当教員		青山　みどり		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	プログラマーとしてシステム開発会社に2年間勤務後、保険会社にて顧客データの管理・関連事務に3年間携わる。自身の経験をもとに、Officeアプリを適切に活用できるよう指導する。						

□位置付け

ワープロソフト「Microsoft Word」・表計算ソフト「Microsoft Excel」・プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint」などを利用してのパソコン操作は、医薬品関連企業での基本的な業務であり、その技術を習得する科目である。

□授業の目的

社会人基礎力としてのパソコンの活用方法を習得し、社会人になった際、職場のコンピュータ環境に対応できるようコンピュータリテラシーの知識を身につける。

□授業の到達目標

1．タッチタイピングによるキーボード入力を習得する
2．コンピュータの基礎知識、およびインターネットを活用する上での情報モラル・セキュリティについて理解する。
3．ワープロソフト「Microsoft Word」の基本操作を習得する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		5
試験等	提出物	20
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	70
	平常の授業状況（　　）	5
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

試験、出席状況、授業への参加度などを対象として総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

この授業は「パソコン初心者」にレベル設定していますので、パソコン操作に慣れていない学生も安心して受講してください。コンピュータの知識は社会人としての基礎スキルであり、他の教科の学習にも関わります。幅広く学びましょう。

□テキスト

*よくわかる Word 2016 &Excel 2016 &PowerPoint 2016<改訂版>
*資料ファイル「パソコン演習」

□参考図書・資料・参考ホームページ

検定取得を目指す場合は適宜指示します。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ガイダンス	授業の進め方、パソコンの起動方法、タッチタイピング
2	日本語入力①	文字変換、読めない漢字の入力
3	日本語入力②	文章変換
4	コンピュータの基礎知識①	コンピュータの構成要素、さまざまな単位
5	コンピュータの基礎知識②	OSとアプリケーション、Windowsの基本操作
6	情報モラルとセキュリティー	個人情報の取り扱い、著作権について、ネット社会の危険と対策
7	Word演習①	Wordの基本操作（画面構成、範囲選択、移動とコピー）
8	Word演習②	書式設定（均等割付、箇条書き、ルビ、傍点）
9	Word演習③	印刷機能（ヘッダー・フッター、レイアウト設定、印刷）
10	Word演習④	表作成機能
11	Word演習＜課題＞	表を含むビジネス文書の作成
12	Word演習⑤	表現力をアップする機能
13	Word演習＜課題＞	図を含むビジネス文書の作成
14	定期試験	Wordによる文書作成
15	前期総括	試験解説、前期補足

科目名	パソコン演習Ⅱ			担当教員		青山　みどり		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	プログラマーとしてシステム開発会社に2年間勤務後、保険会社にて顧客データの管理・関連事務に3年間携わる。自身の経験をもとに、Officeアプリを適切に活用できるよう指導する。						

□位置付け

ワープロソフト「Microsoft Word」・表計算ソフト「Microsoft Excel」・プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint」などを利用してのパソコン操作は、医薬品関連企業での基本的な業務であり、その技術を習得する科目である。

□授業の目的

社会人基礎力としてのパソコンの活用方法を習得し、社会人になった際、職場のコンピュータ環境に対応できるようコンピュータリテラシーの知識を身につける。

□授業の到達目標

1．タッチタイピングによる正確なキーボード入力を習得する
2．表計算ソフト「Microsoft Excel」・プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint」の基本操作を習得する

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		5
試験等	提出物	30
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	5
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

試験、出席状況、授業への参加度などを対象として総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

この授業は「パソコン初心者」にレベル設定していますので、パソコン操作に慣れていない学生も安心して受講してください。コンピュータの知識は社会人としての基礎スキルであり、他の教科の学習にも関わります。幅広く学びましょう。

□テキスト

*よくわかる Word 2016 &Excel 2016 &PowerPoint 2016〈改訂版〉
*資料ファイル「パソコン演習」

□参考図書・資料・参考ホームページ

検定取得を目指す場合は適宜指示します。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	Excel 演習①	Excel の基本操作（画面構成、範囲選択、移動とコピー）
2	Excel 演習②	表の作成と編集（オートフィル、罫線、表の書式設定）
3	Excel 演習③	基本的な関数（SUM,AVERAGE など）、絶対参照
4	Excel 演習④	条件付き書式、オートフォーマット、表の印刷
5	Excel 演習＜課題＞	表の作成
6	Excel 演習⑤	グラフの作成（円グラフ、棒グラフ）
7	Excel 演習＜課題＞	グラフの作成
8	Excel 演習⑥	データベース機能
9	PowerPoint 演習①	PowerPoint の基本操作、スライドの作成、オブジェクトの挿入
10	PowerPoint 演習②	効果的な機能、スライドショー
11	PowerPoint 演習＜課題＞	スライドの作成
12	PowerPoint 発表会準備	発表会用作品制作
13	PowerPoint 発表会①	作品発表会
14	PowerPoint 発表会②	
15	定期試験	タイピングおよび Excel による資料作成

科目名	サービス接遇Ⅰ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	化粧品・健康食品販売員教育担当として販売員の接客・知識・技術の指導を行う傍ら、教育用資材の作成・店舗運営を４年間経験。接客・店舗運営の知識を包括的に伝え、即戦力となる人材の育成を目指す。						

□位置付け

接客のおける良いマナー、良い立ち居振る舞いの方法を学び、それを活用してより良いコミュニケーション能力を身につけていく科目である。

□授業の目的

どの様な仕事に就いてもコミュニケーションは欠かせません。この授業では社会人として必要なマナーを学び、良い印象を与える立ち居振る舞いを身に付けます。学んだことを活用し、どの様な立場の方とも気持ちよく過ごせるコミュニケーション能力を身に付けましょう。

□授業の到達目標

・社会常識を理解し、一般的なマナーを習得する。
・接遇用語、敬語を正しく使用することが出来る。
・様々な職種における基本的なお客さま対応を理解している。
・サービス接遇検定３級の取得を目指す。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
ペアワークやグループワークへの参加態度も評価に反映されますので、積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ
この授業で行う内容はコミュニケーションの基礎となります。授業中だけでなく普段から良い言葉遣い、マナーを心掛けましょう。

□テキスト
サービス接遇検定　３・２級　テキスト＆問題集

□参考図書・資料・参考ホームページ
サービス接遇検定　３級受験ガイド
サービス接遇検定実問題集　３級

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業の目標、サービスの意義、資格試験概要
2	対人技能	適切な接遇用語・敬語
3	実務技能	社交業務
4	一般知識	ことわざ、慣用句、専門用語
5	専門知識	お客様の対応方法
6	３級検定対策①	過去問題、解説
7	３級検定対策②	〃
8	３級検定対策③	〃
9	検定試験振り返り	検定試験解答解説、２級受験の概要
10	２級検定対策①	過去問題、解説
11	２級検定対策②	〃
12	２級検定対策③	〃
13	２級検定対策④	〃
14	２級検定対策⑤	〃
15	定期試験	

科目名	サービス接遇Ⅱ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	化粧品・健康食品販売員教育担当として販売員の接客・知識・技術の指導を行う傍ら、教育用資材の作成・店舗運営を４年間経験。接客・店舗運営の知識を包括的に伝え、即戦力となる人材の育成を目指す。						

□位置付け

接客のおける良いマナー、良い立ち居振る舞いの方法を学び、それを活用してより良いコミュニケーション能力を身につけていく科目である。

□授業の目的

どの様な仕事に就いてもコミュニケーションは欠かせません。この授業では社会人として必要なマナーを学び、良い印象を与える立ち居振る舞いを身に付けます。前期に身に付けた基本を活用し、２級受験後には実践的な場面を想定したロールプレイングを行います。これらの学習を行うことで社会に出て即戦力になる人材の育成を目標とします。

□授業の到達目標

・お客さまに良い印象を与える接遇を身に付ける。
・社会人として必要なマナーを身に付け臨機応変に対応できる。
・サービス接遇検定２級の取得を目指す。
・サービス接遇検定準１級の取得を目指す。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

ペアワークやグループワークへの参加態度も評価に反映されますので、積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

社会人として身に付けておく必要のある内容です。
毎回の授業で、自分磨きをしましょう。

□テキスト

サービス接遇検定　３・２級　テキスト＆問題集

□参考図書・資料・参考ホームページ

サービス接遇検定　２級受験ガイド
サービス接遇検定実問題集　１・２級

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業の進め方、目的
2	２級検定対策①	過去問題、解説
3	２級検定対策②	〃
4	２級検定対策③	〃
5	検定試験振り返り	検定試験解答解説
6	準１級受験対策	準１級受験の概、ロールプレイング実習
7	１級内容紹介	１級の問題にチャレンジ
8	ビジネスマナー①	ビジネス文書
9	ビジネスマナー②	電話応対
10	ビジネスマナー③	来客応対・訪問
11	ビジネスマナー④	名刺交換
12	ビジネスマナー⑤	冠婚葬祭
13	ビジネスマナー⑥	食事のマナー（和食・洋食）
14	総復習	まとめ
15	定期試験	

科目名	キャリアデザインⅠ			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

年間の運営計画に基づくクラス活動（ホームルーム）で、学生とクラス担当が学年、学期ごとの学習目標や学校生活上の課題の解決を図りながら、円滑にコミュニケーションを維持、増進する基本時間であり、、またキャリアサポートプログラム（WCSP）による就職活動を含む進路選択の支援、指導などを行う科目である。

□授業の目的

・学校生活と日常の学習及び検定、就職活動などに関わる連絡事項の周知徹底。
・クラス担任と学生及び学生相互の円滑かつ的確なコニュニケーションの維持、向上。
・クラス担任による学習及び学校生活、就職活動などの日常指導、また課外活動や学校行事の参加準備。
・資格試験の合格に向けた準備と補助指導。
・就職活動に必要な情報提供と実地練習などによる就職活動支援。

□授業の到達目標

・諸連絡事項をタイムリーに正確に伝達し、クラス全員に周知徹底する。
・クラス担任と学生及び学生相互のコミュニケーションを維持し、向上させ、円滑な人間関係を形成する。
・学習及び学校生活、就職活動などの日常指導を適宜実施し、課外活動や学校行事などにも協力して取り組む。
・必要な準備と補助指導により目指す検定に合格する。
・キャリアサポートセンターと協力し就職活動へ向け自己を振り返り、意識の醸成をおこの支援、指導により、学生の希望する就職内定を実現する。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		40
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	60
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

出席と学生の授業への取組み姿勢、態度により評価いたしますので、積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

クラスの運営に関わる話し合いや自己理解を深めるプログラムを行います。自己理解は就職活動におけるの職種決定の基礎となりますので、自分と向き合う時間を大切にしましょう。
進行状況により授業内容の変更が生じる場合があります。

□テキスト

・就職活動ノート

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション①	各種連絡事項、学校生活の心構え、クラス運営の確認他
2	オリエンテーション②	校内案内、施設説明
3	オリエンテーション③	避難経路の確認、クラス内交流
4	１・２年生合同授業	１・２年の自己紹介、学生生活についての情報交換
5	グループワーク①	グループワークを通して問題解決能力を身に付ける
6	キャリアサポートプログラム①	学生生活をデザインする(1)
7	グループワーク②	グループワークを通して問題解決能力を身に付ける
8	グループワーク③	グループワークを通して問題解決能力を身に付ける
9	自己理解①	就活には自己分析が必要であり重要であることを知ろう
10	グループワーク④	グループワークを通して問題解決能力を身に付ける
11	自己理解②	自己分析シート「My　カルテ」作成①
12	グループワーク⑤	グループワークを通して問題解決能力を身に付ける
13	筆記試験対策①	模擬試験
14	キャリアサポートプログラム②	学生生活をデザインする(2)前期半ばの振り返り、夏休みの過ごし方
15		夏休みの振り返り、秋休みの計画

科目名	キャリアデザインⅡ			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

年間の運営計画に基づくクラス活動（ホームルーム）で、学生とクラス担当が学年、学期ごとの学習目標や学校生活上の課題の解決を図りながら、円滑にコミュニケーションを維持、増進する基本時間であり、、またキャリアサポートプログラム（WCSP）による就職活動を含む進路選択の支援、指導などを行う科目である。

□授業の目的

・学校生活と日常の学習及び検定、就職活動などに関わる連絡事項の周知徹底。
・就職活動に必要な情報提供と実地練習などによる就職活動支援。
・クラス担任による学習及び学校生活、就職活動などの日常指導、また課外活動や学校行事の参加準備。

□授業の到達目標

・諸連絡事項をタイムリーに正確に伝達し、クラス全員に周知徹底する。
・キャリアサポートセンターと協力した就職活動の支援、指導により、学生の希望する就職内定を実現する。
・学習及び学校生活、就職活動などの日常指導を適宜実施し、課外活動や学校行事などにも協力して取り組む。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		40
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	60
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
出席と学生の授業への取組み姿勢、態度により評価いたしますので、積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ
就職活動に向けた支援、指導を中心に行います。登録販売者の採用活動は３月から始まります。まだ日にちがあるからと先延ばしにせず早めに準備をすることが大切です。

□テキスト
・職活動ノート

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	各種連絡事項、クラス運営の確認他
2	キャリアサポートプログラム①	活動計画
3	キャリアサポートプログラム②	情報収集
4	キャリアサポートプログラム③	履歴書対策①
5	キャリアサポートプログラム④	履歴書対策②
6	キャリアサポートプログラム⑤	内定者懇談会
7	キャリアサポートプログラム⑥	履歴書対策③
8	キャリアサポートプログラム⑦	筆記試験対策（一般常識試模擬試験実施）
9	キャリアサポートプログラム⑧	面接対策①
10	キャリアサポートプログラム⑨	面接対策②
11	１・２年合同授業	学生生活についての情報交換
12	キャリアサポートプログラム⑩	面接対策③
13	キャリアサポートプログラム⑪	履歴書対策④
14	キャリアサポートプログラム⑫	面接対策④グループディスカッション
15	キャリアサポートプログラム⑬	後期の振り返り、春休みの過ごし方について

科目名	応対の技術			担当教員		山崎　晴美		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	ビューティーアドバイザー・登録販売者として、ドラッグストアで１９年勤務。接客の基本技術と起こしやすいクレームを自身の経験をもとに分かりやすく丁寧に教授する。						

□位置付け

接客応対のロールプレイングを通して、接客の基本を学ぶ科目である。

□授業の目的

◎　社会人としての心構えを養う
◎　接客マナーを習得する
◎　応対の基礎・基本をマスターする

□授業の到達目標

◎　人（お客様含む）の気持ちをイメージ出来るようにする
◎　接客マナーを習得する
◎　応対が出来るように、ロールプレイングで慣れる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	10
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	30
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験のほかに、出席状況、随時試験、授業態度も評価します。居眠り、私語は減点の対象となります。

□学生へメッセージ

授業は休まずに出席してください。随時試験などで復習しながら、確実に知識を身につけてください。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	接客マナーとは	オリエンテーション、接客マナーについて
2	接客マナー①	身だしなみ
3	接客マナー②	笑顔
4	接客マナー③	挨拶
5	接客マナー④	態度
6	接客マナー⑤	言葉遣い
7	接客マナー⑥	電話対応
8	接客マナー⑦	店頭での応対
9	接客マナー⑧	お客様に合わせた接客
10	接客マナー⑨	顧客カルテの活用
11	演習Ⅰ	総合演習
12	演習Ⅱ	総合演習
13	演習Ⅲ	総合演習
14	まとめ	
15	定期試験	

科目名	医薬品基礎（人体の構造）			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

医薬品の人体への作用をより理解するため、人体の構造と働きを学ぶ科目である。

□授業の目的

登録販売者という一般用医薬品のプロフェッショナルを目指すためには、一般用医薬品の知識だけでなく、それらが人体のどの器官に対してどのように作用し、どのような効果と副作用をもたらすのかを熟知することで達成されます。本講義では、登録販売者として必要不可欠な人体の構造に関する基礎解剖学や生理学を習得し、将来的に信頼される一般医薬品アドバイザーとなるためのベースライン構築を目的とします。

□授業の到達目標

本講義では、以下の４項目を授業の到達目標とします。
1.　人体を構成する細胞、組織、器官、器官系を理解し、人体の基本的な構造が説明できるようになる。
2.　人体の各臓器の機能と役割を理解し、説明できるようになる。
3.　人体の各臓器が障害されたときに発生する疾患との関連性を理解し、説明できるようになる。
登録販売者試験おいて、人体の構造に関連する問題の正答率 90%以上を目指す。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	－
	定期試験	80
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

講義への出席状況や参加意欲（積極性）、定期試験（期末試験）などを総合的に勘案して評価します。

□学生へのメッセージ

医療現場での実体験を盛り込んで皆さんが興味を持って授業参加できるように創意工夫しますので、講義を楽しみながら解剖学や生理学の基礎知識を習得して下さい。

□テキスト

・登録販売者試験　受験対策　共通テキスト　上巻
過去問題集

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	人体の構造と働き　①	基礎　（細胞と組織）
2	人体の構造と働き　②	消化器系　①　（消化管）
3	人体の構造と働き　③	消化器系　②　（消化腺）
4	人体の構造と働き　④	呼吸器系
5	人体の構造と働き　⑤	循環器系　①　（心臓血管系）
6	人体の構造と働き　⑥	循環器系　②　（体液と血液）
7	人体の構造と働き　⑦	泌尿器系
8	人体の構造と働き　⑧	感覚器
9	人体の構造と働き　⑨	運動器
10	人体の構造と働き　⑩	神経系（自律神経、末梢神経）
11	人体の構造と働き　⑪	Ⅱ　薬が働く仕組み
12	人体の構造と働き　⑫	Ⅲ　症状からみた副作用　①
13	人体の構造と働き　⑬	Ⅲ　症状からみた副作用　②
14	まとめと復習	1～13 の講義で学んだ知識のまとめと復習
15	定期試験	1～13 の範囲で出題する

科目名	医薬品基礎（基礎と安全対策）			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

医薬品の特性とその安全性について学ぶ科目である。

□授業の目的

ここ数年、少子・高齢化の中で一般医薬品の果たすべき役割が重要になり、併せてセルフメディケーションの位置づけが高まっています。今後、益々医薬・健康美容にかかわる専門家は、大きな役割と責任が期待されていきます。この授業では、医薬品に共通する特性、基本的な知識、医薬品の安全性を体系的に学びます。

□授業の到達目標

・医薬品の本質を理解する
・医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因を理解する
・適切な医薬品選択と受診勧奨を理解する
・薬害の歴史を理解する
・医薬品の適正使用と安全対策を理解する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	
	定期試験	80
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

覚える内容が多いため、授業終了後に復習をする習慣をつけましょう。

□テキスト

・登録販売者試験受験対策共通テキスト　上巻

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医薬品の本質	医薬品そのもの、副作用、情報収集と提供の概要を知る
2	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因①	副作用と不適切な使用、有害事象、相互作用を知る
3	同上②	小児、高齢者、妊婦・授乳婦、治療中の人への対応を知る
4	同上③	プラセボ効果、医薬品の品質を知る
5	適切な医薬品選択と受診勧奨	一般用医薬品で対処可能な範囲と販売時のコミュニケーション
6	薬害の歴史	医薬品の副作用に対する基本的な考え方と主な訴訟を知る
7	中間試験及び解説	１章のまとめ
8	医薬品の適正使用と安全対策①	適正情報の意義と添付文書や製品表示の記載の内容を知る(1)
9	医薬品の適正使用と安全対策②	添付文書や製品表示の記載の内容を知る(2)
10	医薬品の適正使用と安全対策③	添付文書や製品表示の記載の内容を知る(3)
11	医薬品の適正使用と安全対策④	医薬品の副作用情報等の収集、評価および措置を知る
12	医薬品の適正使用と安全対策⑤	医薬品副作用被害救済制度を知る
13	医薬品の適正使用と安全対策⑥	一般医薬品に関する安全対策、各種啓発活動とその重要性を知る
14	中間試験及び解説	５章まとめ
15	定期試験	

科目名	医薬品基礎（作用Ⅰ）			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

医薬品の人体への主作用、副作用などを、臓器や器官系ごとに系統的に学ぶ科目である。

□授業の目的

ここ数年、少子・高齢化の中で一般医薬品の果たすべき役割が重要になり、併せてセルフメディケーションの位置づけが高まっています。今後、益々医薬・健康美容にかかわる専門家は、大きな役割と責任が期待されていきます。この授業では、医薬品の作用（精神神経に作用する薬、呼吸器官、心臓などの器官や血液に作用する薬）を体系的に学びます。

□授業の到達目標

①病気の諸症状と精神神経に作用する薬（配合成分、副作用、相互作用、受診勧奨）を理解する
②病気の諸症状と呼吸器官に作用する薬（配合成分、副作用、相互作用、受診勧奨）を理解する
③病気の諸症状と心臓などの器官や血液に作用する薬（配合成分、副作用、相互作用、受診勧奨）を理解する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください

□テキスト

・登録販売者試験受験対策　共通テキスト・下巻
（有限責任中間法人　日本薬業研修センター）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・特になし

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	精神神経に作用する薬　かぜ薬①	かぜの発症と諸症状、かぜ薬の働きを知る
2	・かぜ薬②	代表的な配合成分、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
3	・解熱鎮静薬①	痛みや発熱が起こる仕組み、解熱鎮痛薬の働きを知る
4	・解熱鎮静薬②	代表的な配合成分等、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
5	・眠気を促す薬	眠気の症状、配合成分、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
6	・眠気を防ぐ薬	カフェインの働き、配合成分、副作用、相互作用、休養勧奨を知る
7	・乗物酔い防止薬	めまいの症状、配合成分、副作用、相互作用、受診勧奨を知る
8	・小児の生薬・漢方処方製剤	小児の疳の諸症状、配合成分、副作用、相互作用、受診勧奨を知る
9	呼吸器官に作用する薬	咳や痰が出る仕組み、鎮咳去痰薬の働きを知る
10	・鎮咳去痰薬	代表的な配合成分、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
11	・口腔咽喉薬、うがい薬	代表的な配合成分、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
12	心臓などの器官や血液に作用する薬　・強心薬	動悸、息切れ等の生じる原因、配合成分等、副作用、相互作用、受診勧奨を知る
13	・高コレステロール改善薬	血中コレステロールの働き、配合成分、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
14	・貧血用薬その他循環器用薬	貧血症状と高血圧や心疾患に伴う諸症状、配合成分、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
15	定期試験	テキストの範囲を中心に出題します

科目名	医薬品基礎（作用Ⅱ）			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

医薬品の人体への主作用、副作用などを、臓器や器官系ごとに系統的に学ぶ科目である。

□授業の目的

（１）テキスト「登録販売者試験・下巻・３章」のうち、胃腸、排泄にかかる部位、婦人の薬について学ぶ
（２）実践演習問題も随時取り入れ、習熟度をチェックしながら、登録販売者試験の合格、ならびに医薬品のアドバイザーになることを目的に、授業を行う。

□授業の到達目標

テキスト３章の下記の部分を理解、学習することで、最終的に登録販売者試験の合格レベルに到達することを目標にする
①胃、腸、排泄に関わる部位、婦人の不調の仕組みを理解する
②それらの薬の働く仕組みを理解する
③それらの主な成分の名称、配合目的、副作用、相互作用などを覚える

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	
	定期試験	80
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください

□テキスト

登録販売者試験　受験対策　共通テキスト　上巻
過去問題集

□参考図書・資料・参考ホームページ

・登録販売者試験受験対策　重要ワード集
（有限責任中間法人　日本薬業研修センター）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	・胃と腸のしくみ	胃と腸の構造と働きを知る
2	・胃の薬①	胃の不調の原因、薬の働きなどを知る
3	・胃の薬②	代表的な配合成分等、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
4	・腸の薬①	腸の不調の原因、薬の働きなどを知る
5	・腸の薬②	止瀉薬（ししゃやく）、瀉下薬（しゃげやく）を知る
6	・腸の薬③	代表的な配合成分等、主な副作用、相互作用、受診勧奨を知る
7	・胃腸鎮痛鎮痙薬	急な胃腸の痛みの仕組み、配合成分、主な副作用などを知る
8	・その他消化器官用薬	浣腸薬、駆虫薬の配合成分、主な副作用などを知る
9	・排泄に関わる部位の薬①	痔の発症と対処、痔疾用薬について知る
10	・排泄に関わる部位の薬②	配合成分、主な副作用などを知る
11	・その他の泌尿器用薬	代表的な配合成分等、主な副作用などを知る
12	・婦人薬①	月経、適用対象となる体質・症状配合成分、副作用などを知る
13	・婦人薬②	月経、適用対象となる体質・症状配合成分、副作用などを知る
14	問題演習	
15	定期試験	

科目名	医薬品基礎（作用Ⅲ）			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に37年間の医薬品関連の実務経験と12年間の教師としての実務経験をもとに、ヘルスケアについての授業を行います。						

□位置付け

医薬品の人体への主作用、副作用などを、臓器や器官系ごとに系統的に学ぶ科目である。

□授業の目的

登録販売者試験対策テキスト（下）の内容について、一般用医薬品の知識を身につけるとともに、登録販売者試験に合格することを目的にしている。

□授業の到達目標

登録販売者試験に合格できるレベルを到達目標としている。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	30
	定期試験	30
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・出席状況、授業態度（積極的な参加態度など）、随時試験、定期試験で成績を評価します

□学生へのメッセージ

・随時試験などを通して、登録販売者試験に合格して、就職後に役に立つ医薬品の知識を身につけましょう

□テキスト

・登録販売者試験対策テキスト（下）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	第3章アレルギー用薬	アレルギーの症状、薬が症状を抑える仕組みなどを解説
2	〃	小テスト、レビュー
3	第3章鼻に用いる薬	鼻炎の種類や原因と鼻炎用点鼻薬について解説
4	〃	小テスト、レビュー
5	第3章眼科用薬	眼科用薬の解説、小テスト、レビュー
6	第3章皮膚に用いる薬	外皮用薬（きず口の殺菌消毒、抗菌・抗真菌、頭皮用など）の解説
7	〃	小テスト、レビュー
8	第3章歯や口中に用いる薬	解説、小テスト、レビュー
9	第3章禁煙補助剤	説明、小テスト、レビュー
10	第3章滋養強壮保健薬	解説、小テスト、レビュー
11	第3章漢方処方製剤	解説、小テスト、レビュー
12	第3章公衆衛生用薬	感染症の防止と消毒薬などの解説
13	〃	小テスト、レビュー
14	第3章一般用検査薬	解説、小テスト、レビュー
15	定期試験	

科目名	医薬品基礎（関係法規）			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

医薬品関連業務上必要な医薬品関連法規と制度（医薬品医療機器法等）について学ぶ科目である。

□授業の目的

ここ数年、少子・高齢化の中で一般医薬品の果たすべき役割が重要になり、併せてセルフメディケーションの位置づけが高まっています。今後、益々医薬・健康美容にかかわる専門家は、大きな役割と責任が期待されていきます。この授業では、医薬品関連法規を体系的に学びます。

□授業の到達目標

①医薬品の販売業の許可を理解する
②医薬品の取扱いを理解する
③医薬品販売に関する法令遵守を理解する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください。

□テキスト

・登録販売者試験受験対策　共通テキスト　上巻
（有限責任中間法人　日本薬業研修センター）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・特になし

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医薬品の取扱い①	医薬品の定義と範囲を知る
2	医薬品の取扱い②	一般用医薬品と医療用医薬品、毒薬・劇薬等の違いを知る①
3	医薬品の取扱い③	一般用医薬品と医療用医薬品、毒薬・劇薬等の違いを知る②
4	医薬品の取扱い④	一般用医薬品と医療用医薬品、毒薬・劇薬等の違いを知る③
5	医薬品の取扱い⑤	一般用医薬品のリスク区分、リスク区分に応じた情報提供を知る
6	医薬品の取扱い⑥	容器・外箱等への記載事項、貼付文書等への記載事項を知る
7	医薬品の販売業の許可①	許可の種類と許可行為の範囲を知る
8	医薬品の販売業の許可②	許可の種類と許可行為の範囲と対面販売の原則を知る
9	中間試験及び解説	医薬品の取扱い、医薬品の販売業の許可
10	医薬品販売に関する法令遵守①	適正な販売広告を知る
11	医薬品販売に関する法令遵守②	適正な販売方法を知る
12	医薬品販売に関する法令遵守③	行政庁の監視指導、苦情相談窓口を知る
13	医薬品販売に関する法令遵守④	行政庁の監視指導、苦情相談窓口を知る
14	中間試験及び解説	医薬品販売に関する法令遵守
15	定期試験	テキストの範囲を中心に出題します

科目名	食品栄養学Ⅰ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	化粧品・健康食品販売員教育担当として販売員の接客・知識・技術の指導を行う傍ら、教育用資材の作成・店舗運営を４年間経験。接客・店舗運営の知識を包括的に伝え、即戦力となる人材の育成を目指す。						

□位置付け

健康維持に重要かつ必要な要素の一つである食生活の内容を、食品栄養学的に、理論的、かつ分かりやすくアドバイスができる知識を学ぶ科目である。

□授業の目的

私たちの体は食べたものにより作られます。栄養学は健康の維持、増進だけでなく病気の予防、治療にも欠かせません。この授業では５大栄養素の働き、代謝についての知識を身に付けます。さらに調理実習を行うことで実際に食材に触れ、調理を行い、より実践的な提案ができるようになることを目的としています。

□授業の到達目標

・５大栄養素の働き、代謝について理解する。
・サプリメントの構成成分について理解する。
・栄養素の過不足が生じた場合に発生する疾病についての知識を身に付ける。
・食材の最適な調理方法やサプリメントについてアドバイスができる。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく随時試験、授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

自分の食べているものに関心を持つことが勉強に繋がります。
取り入れることのできるものから実践してみましょう。
※調理実習は感染症の流行状況により実施できない場合があります。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

ＮＲ・サプリメントアドバイザー必携

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	エネルギー代謝と栄養素の必要量など
2	糖質①	種類、性質、働きなど
3	糖質②	〃
4	タンパク質	〃
5	脂質①	〃
6	脂質②	〃
7	ビタミン①	〃
8	ビタミン②	〃
9	無機質①	ミネラル、微量元素の種類、性質、働きなど
10	無機質②	電解質の種類、性質、働きなど
11	その他成分	乳酸菌、カロテノイド、ポリフェノールの種類、性質、働きなど
12	調理実習①	栄養・カロリーバランスの良い食事を作る（２コマ連続授業）
13	調理実習②	〃
14	総復習	まとめ
15	定期試験	

科目名	調剤事務Ⅰ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

調剤薬局業務に必要な、医療保険制度、調剤報酬請求の算定方法、レセプト作成、関連法規などを学ぶ科目である。

□授業の目的

調剤事務員として勤務するために欠かせない医療保険制度などの知識を習得し、調剤報酬レセプトを作成する技術を身に付ける。

□授業の到達目標

・医療保険制度を理解する。
・調剤報酬請求の算定方法を理解する。
・レセプト作成の知識を身に付ける。
・調剤事務管理士技能認定試験合格を目指す。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	10
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく随時試験、授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

基礎をしっかりと理解することが大切です。
分からないことは貯め込まず、都度解消していきましょう。

□テキスト

ソラスト調剤薬局事務講座１～４

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	医療機関の概要、調剤事務の仕事内容について
2	医療保険制度①	医療保険制度と給付の仕組み
3	医療保険制度②	公費負担医療、労災保険、介護保険など
4	レセプト作成①	上書きの書き方
5	レセプト作成②	処方欄、その他欄の書き方
6	レセプト作成③	〃
7	レセプト作成④	調剤料の加算（計量混合加算）
8	レセプト作成⑤	〃
9	レセプト作成⑥	調剤料の加算（自家製剤加算）
10	レセプト作成⑦	〃
11	レセプト作成⑧	調剤料の加算（一包化加算）
12	レセプト作成⑨	〃
13	総復習①	問題演習、解答解説
14	総復習②	問題演習、解答解説
15	定期試験	

科目名	調剤事務Ⅱ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

調剤薬局業務に必要な、医療保険制度、調剤報酬請求の算定方法、レセプト作成、関連法規などを学ぶ科目である。

□授業の目的

調剤事務員として勤務するために欠かせない医療保険制度などの知識を習得し、調剤報酬レセプトを作成する技術を身に付ける。

□授業の到達目標

・医療保険制度を理解する。
・調剤事務員に求められる接客、接遇を理解する。
・加算の内容を理解し、正しいレセプトを作成できる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	10
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく随時試験、授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

検定試験に向け知識を確実なものにしていきましょう。
間違いが無いよう見直しをする癖をつけることが大切です。
早くレセプトが仕上がった方はぜひ周りで困っている方に教えてあげて下さい。教え合うことで理解も深まります。

□テキスト

ソラスト調剤薬局事務講座１～４

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	前期の復習
2	レセプト作成①	１剤・１調剤の考え方
3	レセプト作成②	受付回数の考え方
4	レセプト作成③	〃
5	レセプト作成④	時間の加算
6	レセプト作成⑤	〃
7	レセプト作成⑥	特定保健医療材料
8	レセプト作成⑦	薬学管理料の加算
9	レセプト作成⑧	〃
10	レセプト作成⑨	レセプトの点検
11	総復習①	問題演習、解答解説
12	総復習②	問題演習、解答解説
13	総復習③	問題演習、解答解説
14	総復習④	問題演習、解答解説
15	定期試験	

科目名	東洋医学概論			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

西洋医学だけでなく、つぼ、漢方薬、民間療法など日本古来の伝統療法である東洋医学の考え方などを学ぶ科目である。

□授業の目的

西洋医学だけに偏らず、東洋医学という患者の状態に寄り添った医療を学び、ドラックストア等で対応できるようにする。また、ドラックストアで購入できる漢方薬やお灸についての基本的な知識を学び、接客に活用できるようにすることを目的とする。

□授業の到達目標

・東洋医学の基本的な知識を身に付け、説明することができる。
・ドラックストアで販売されているお灸の正しい使用方法を説明することができる。
・漢方薬についての基本的な知識を身に付け、説明することができる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		30
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・出席状況や授業態度などを重視して評価する。

□学生へのメッセージ
・楽しく学べる授業を心がけます。難しい内容ではないので、覚えるための学習ではなく、どのように活用していくかを考えながら授業を受けてもらえればと思います。

□テキスト
・

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	東洋医学について、虚証と実証	西洋医学と東洋医学の違い、虚証と実証とは、分類について
2	陰証と陽証	陰証と陽証についての基本的な知識の学習、体質の確認
3	気・血・津液	気・血・津液についての基本的な知識の学習、体質の確認
4	五臓論	五臓についての基本的な知識の学習、体質の確認
5	経絡と経穴①	経絡と経穴についての基本的な知識、ツボのとり方と効果
6	経絡と経穴②	ツボのとり方と効果
7	鍼灸治療	鍼灸治療の基礎知識、ドラックストアで購入できる灸の種類
8	灸実技	ドラックストアで購入できる灸の使用方法と注意点
9	漢方とは	漢方についての基本的な知識の学習
10	漢方と生薬①	漢方と生薬についての基本的な知識の学習、その種類
11	漢方と生薬②	漢方と生薬についての基本的な知識の学習、その種類
12	漢方と生薬③	症例別に漢方と生薬の適応考え、その注意点と説明方法を学習
13	1～13 回のまとめ①	1～13 回を振り返り、基本的な内容のおさらい
14	1～13 回のまとめ②	1～13 回を振り返り、基本的な内容のおさらい
15	期末試験	

科目名	病気とヘルスケア			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に37年間の医薬品関連の実務経験と12年間の教師としての実務経験をもとに、ヘルスケアについての授業を行います。						

□位置付け

病気の成り立ちや予防などを学び、健康維持のための相談やアドバイスができる知識を学ぶ科目である。

□授業の目的

登録販売者として、現場に出たときに必要となる病気・健康維持などの知識を習得することを目的とする。

□授業の到達目標

登録販売者試験に合格できるレベルを到達目標とする。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	―
	レポート	―
	随時試験	30
	定期試験	30
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

出席状況、授業態度（積極的な発言など）、随時試験、定期試験で評価します

□学生へのメッセージ

病気や健康に関する知識を確実に身につけましょう

□テキスト

登録販売者試験対策テキスト（下）

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方	
1	はじめに	病気についての基礎知識	
2	精神神経系（1）	かぜとインフルエンザ	小テスト
3	精神神経系（2）	睡眠、めまい、小児の疳	小テスト
4	呼吸器系	咳、痰と病気	小テスト
5	消化器系（1）	胃の働きと病気	小テスト
6	消化器系（2）	腸の働きと病気	小テスト
7	循環器系	心臓の働きと病気	小テスト
8	排泄について	痔の病気、排尿のトラブル	小テスト
9	婦人病	更年期障害など	小テスト
10	アレルギーについて	アレルギーの仕組みと病気	小テスト
11	目について	目の仕組みと病気	小テスト
12	皮膚について	皮膚の病気	小テスト
13	ビタミンについて	ビタミンの働きと病気	小テスト
14	感染症について	感染症の予防	小テスト
15	定期試験		

科目名	漢方の知識			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に37年間の医薬品関連の実務経験と12年間の教師としての実務経験をもとに、漢方薬についての授業を行います。						

□位置付け

生薬の種類と薬効、および漢方処方製剤の考え方、処方が適する人、適さない人、服用時の注意点などを学ぶ科目である。

□授業の目的

登録販売者として現場に出た時に、必要となる漢方処方製剤の知識を習得し、生薬名・漢方処方製剤名に慣れ親しむことを目的とする。

□授業の到達目標

登録販売者試験に合格できるレベルを到達目標とする。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		20
試験等	提出物	―
	レポート	―
	随時試験	30
	定期試験	30
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

出席状況、授業態度（積極的な発言など）、随時試験、定期試験で総合的に評価します

□学生へのメッセージ

随時試験などで復習しながら、確実に知識を身につけましょう

□テキスト

登録販売者試験対策テキスト（下）

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	漢方、生薬とは	特性について
2	精神神経に作用する薬(1)	関連する漢方薬、生薬の特徴　　小テスト
3	〃　(2)	〃　　小テスト
4	〃　(3)	〃　　小テスト
5	呼吸器官に作用する薬(1)	〃　　小テスト
6	〃　(2)	〃　　小テスト
7	胃腸に作用する薬(1)	〃　　小テスト
8	〃　(2)	〃　　小テスト
9	心臓などに作用する薬	〃　　小テスト
10	排泄などに使用する薬	〃　　小テスト
11	婦人薬(1)	〃　　小テスト
12	〃　(2)	〃　　小テスト
13	アレルギーに使用される薬	〃　　小テスト
14	その他漢方製剤、生薬製剤	〃　　小テスト
15	定期試験	

科目名	校外見学Ⅰ			担当教員		渋谷　大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

医薬品、化粧品関連の工場、ミュージアム、展示会などへの見学を通して、学校で学んだ知識を直接、見聞、確認して、より幅広い知識にする科目である。

□授業の目的

関連業界の状況や動向などを実際に見聞し、知識を広めることを目的とする。

□授業の到達目標

関連業界の状況や動向を実際に見聞し、体験と把握することを到達目標としている。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		40
試験等	提出物	―
	レポート	60
	随時試験	―
	定期試験	―
	平常の授業状況（　　）	―
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

出席、レポート提出がないと成績がつけられません。
体調管理と、期限までにレポートを提出することを徹底しましょう。

□学生へのメッセージ

校外授業のため、交通費が必要となります。
各自目的を持ち、見学を行いましょう。
規律を守り、楽しい課外活動にしましょう。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
3～4	見学実習	関連業界の工場、ショールーム、店舗などの見学や実習、ならびに展示会に参加して、見聞を広げる。

科目名	美容基礎実習Ⅰ			担当教員		中野　薫		単位数	1
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	実習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

美容に関連する基礎的技術を、実技を通して学び、習得する科目である。

□授業の目的

・実習することにより、学習した知識をより深めることが出来る。
・相モデルで実習することにより、即実践に結びつく。

□授業の到達目標

・メイクセラピー３級. ２級資格取得を目標
・人の顔に触れたりメイクしたりすることに慣れること
・メイクをするための技術を習得すること

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習により技術力を養うが、評価は試験だけでなく普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方なども考慮する）

□学生へのメッセージ

自分の顔と人の顔を触るのは全く違う感覚なので、実習により慣れ、人の顔にメイクが出来るようになりましょう。
友達の顔を借りるなどして、普段からの練習が大切です。

□テキスト

・メイクセラピー入門　３級対策
・メイクセラピー検定　２級対策

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	メーキャップ技術と手順	洗顔方法
2	スキンケア演習	泡立て洗顔＆パックの習得
3	メーキャップ基本　Ⅰ	メイクの手順　スキンケア
4	メーキャップ基本　Ⅱ	セルフメイク　眉の描き方・ポイントメイク
5	メーキャップ基本　Ⅲ	セルフメイク　面接メイク
6	メーキャップ基本　Ⅳ	相モデルによるメーキャップの習得　クレンジング・スキンケア
7	メーキャップ基本　Ⅴ	相モデルによるメーキャップの習得　下地・ベース作り
8	メーキャップ基本　Ⅵ	相モデルによるメーキャップの習得　眉・ポイントメイク
9	メーキャップ基本　Ⅶ	相モデルによるメーキャップの習得　クレンジング～眉まで
10	メーキャップ基本　Ⅷ	相モデルによるメーキャップの習得　アイシャドウ
11	メーキャップ基本　Ⅸ	相モデルによるメーキャップの習得　アイライン＋マスカラ
12	メーキャップ基本　Ⅹ	相モデルによるメーキャップの習得　リップ
13	メーキャップ基本　ⅩⅠ	相モデルによるメーキャップの習得　フルメイク
14	メーキャップ基本　ⅩⅡ	相モデルによるメーキャップの習得　スピードアップ演習
15	定期試験	

科目名	美容基礎実習Ⅱ			担当教員		中野　薫		単位数	1
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	実習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

美容に関連する基礎的技術を、実技を通して学び、習得する科目である。

□授業の目的

・実習することにより、学習した知識をより深めることが出来る。
・相モデルで実習することにより、即実践に結びつく。

□授業の到達目標

・メイクセラピー３級. ２級資格取得を目標
・人の顔に触れたりメイクしたりすることに慣れること
・メイクをするための技術を習得すること

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習により技術力を養うが、評価は試験だけでなく普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方なども考慮する）

□学生へのメッセージ

自分の顔と人の顔を触るのは全く違う感覚なので、実習により慣れ、人の顔にメイクが出来るようになりましょう。
友達の顔を借りるなどして、普段からの練習が大切です。

□テキスト

・メイクセラピー入門　３級対策
・メイクセラピー検定　２級対策

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	メーキャップ技術と手順	洗顔方法
2	スキンケア演習	泡立て洗顔＆パックの習得
3	メーキャップ基本　Ⅰ	メイクの手順　スキンケア
4	メーキャップ基本　Ⅱ	セルフメイク　眉の描き方・ポイントメイク
5	メーキャップ基本　Ⅲ	セルフメイク　面接メイク
6	メーキャップ基本　Ⅳ	相モデルによるメーキャップの習得　クレンジング・スキンケア
7	メーキャップ基本　Ⅴ	相モデルによるメーキャップの習得　下地・ベース作り
8	メーキャップ基本　Ⅵ	相モデルによるメーキャップの習得　眉・ポイントメイク
9	メーキャップ基本　Ⅶ	相モデルによるメーキャップの習得　クレンジング～眉まで
10	メーキャップ基本　Ⅷ	相モデルによるメーキャップの習得　アイシャドウ
11	メーキャップ基本　Ⅸ	相モデルによるメーキャップの習得　アイライン＋マスカラ
12	メーキャップ基本　Ⅹ	相モデルによるメーキャップの習得　リップ
13	メーキャップ基本　ⅩⅠ	相モデルによるメーキャップの習得　フルメイク
14	メーキャップ基本　ⅩⅡ	相モデルによるメーキャップの習得　スピードアップ演習
15	定期試験	

科目名	美容基礎実習Ⅲ			担当教員		中野　薫		単位数	1
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	実習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

美容に関連する基礎的技術を、実技を通して学び、習得する科目である。

□授業の目的

・実習することにより、学習した知識をより深めることが出来る。
・相モデルで実習することにより、人の顔にメイクが出来、即実践に結びつく。

□授業の到達目標

・メイクセラピー３級. ２級資格取得を目標
・メイクをするための技術を習得すること
・前期で学んだ技術のバリエーションを増やし、クライアントの要望に応えられるようにする

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習により技術力を養うが、評価は試験だけでなく普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方なども考慮する）

□学生へのメッセージ

・前期で習得した技術のバリエーションが増えると、更にメイクが楽しくなってきます。
　毎回の発見を楽しんでください。

□テキスト

・メイクセラピー入門　３級対策
・メイクセラピー検定　２級対策

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	カウンセリングメイクⅠ	眉による印象の違い　※以下すべて相モデルで行う
2	カウンセリングメイクⅡ	求心と遠心による印象の違い
3	カウンセリングメイクⅢ	可愛い顔とキレイ顔
4	カウンセリングメイクⅣ	顔型別メイク
5	カウンセリングメイクⅤ	大人っぽくて仕事ができる女性メイク
6	カウンセリングメイクⅥ	優しくて安らぎを与える女性メイク
7	カウンセリングメイクⅦ	元気で明るい女性メイク
8	カウンセリングメイクⅧ	TPO メイク（デート）
9	カウンセリングメイクⅨ	TPO メイク（結婚式）
10	カウンセリングメイクⅩ	TPO メイク（仕事）
11	ヘア	ヘアスタイル講義・実践
12	ヘアメイク	テーマに合わせたヘアメイク
13	カウンセリングメイクⅪ	クライアントの要望に合わせたメイク
14	カウンセリングメイクⅫ	クライアントの要望に合わせたメイク
15	定期試験	

科目名	美容基礎実習Ⅳ			担当教員		中野　薫		単位数	1
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	実習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

美容に関連する基礎的技術を、実技を通して学び、習得する科目である。

□授業の目的

・実習することにより、学習した知識をより深めることが出来る。
・相モデルで実習することにより、人の顔にメイクが出来、即実践に結びつく。

□授業の到達目標

・メイクセラピー３級. ２級資格取得を目標
・メイクをするための技術を習得すること
・前期で学んだ技術のバリエーションを増やし、クライアントの要望に応えられるようにする

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		20
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習により技術力を養うが、評価は試験だけでなく普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方なども考慮する）

□学生へのメッセージ

・前期で習得した技術のバリエーションが増えると、更にメイクが楽しくなってきます。
　毎回の発見を楽しんでください。

□テキスト

・メイクセラピー入門　３級対策
・メイクセラピー検定　２級対策

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	カウンセリングメイクⅠ	眉による印象の違い　※以下すべて相モデルで行う
2	カウンセリングメイクⅡ	求心と遠心による印象の違い
3	カウンセリングメイクⅢ	可愛い顔とキレイ顔
4	カウンセリングメイクⅣ	顔型別メイク
5	カウンセリングメイクⅤ	大人っぽくて仕事ができる女性メイク
6	カウンセリングメイクⅥ	優しくて安らぎを与える女性メイク
7	カウンセリングメイクⅦ	元気で明るい女性メイク
8	カウンセリングメイクⅧ	TPO メイク（デート）
9	カウンセリングメイクⅨ	TPO メイク（結婚式）
10	カウンセリングメイクⅩ	TPO メイク（仕事）
11	ヘア	ヘアスタイル講義・実践
12	ヘアメイク	テーマに合わせたヘアメイク
13	カウンセリングメイクⅪ	クライアントの要望に合わせたメイク
14	カウンセリングメイクⅫ	クライアントの要望に合わせたメイク
15	定期試験	

科目名	美容知識Ⅰ			担当教員		中野　薫		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

美容に関連する学術的知識を学び、美容に相談やアドバイスができる知識を学ぶ科目である。

□授業の目的

・メイクセラピー３級・２級の資格取得のための知識を得ること
・アクティブラーニングを織り交ぜ、社会に出た際に直ぐに実践出来ること

□授業の到達目標

・メイクセラピー３級・２級の資格取得
・自分の生活にも実践出来ること
・クライアントの要望に答えられる知識を得ること

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	30
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・評価は試験だけでなく、普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方や発言などを含む）

□学生へのメッセージ

・勉強自体を、「試験のための勉強」ではなく「生活に密着したことを学ぶ」の意識で取り組んでください。
・普段の授業の取り組み方を重視します。

□テキスト

・メイクセラピー入門　３級対策
・メイクセラピー検定　２級対策

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	美しさとは	美しさについて考える･ディスカッション
2	メイクセラピーとは	目的と役割・カウンセリングの流れ
3	カウンセリング理論	カウンセリング・顔と心と化粧の関係
4	スキンケア概論	顔の部位と名称・肌のタイプ
5	表情筋	表情筋・スキンケア以外で出来る美肌作り
6	メイクアップ概論	パーツバランス・錯覚によるメイク効果
7	色彩	好きな色による性格診断・色の印象
8	色彩心理	色彩心理の基礎
9	化粧心理学Ⅰ	化粧の始まり・化粧をする理由
10	化粧心理学Ⅱ	化粧の効用・対人影響力
11	メイクセラピー的心理学Ⅰ	精神分析と無意識・ペルソナ
12	メイクセラピー的心理学Ⅱ	行動療法的アプローチ
13	メイクセラピー的心理学Ⅲ	交流分析
14	ロールプレイング	前期に学んだことの実践
15	定期試験	

科目名	美容知識Ⅱ			担当教員		中野　薫		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

美容に関連する学術的知識を学び、美容に相談やアドバイスができる知識を学ぶ科目である。

□授業の目的

・メイクセラピー３級・２級の資格取得のための知識を得ること
・アクティブラーニングを織り交ぜ、社会に出た際に直ぐに実践出来ること

□授業の到達目標

・メイクセラピー３級・２級の資格取得
・自分の生活にも実践出来ること
・クライアントの要望に答えられる知識を得ること

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	30
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・評価は試験だけでなく、普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方や発言などを含む）

□学生へのメッセージ

・勉強自体を、「試験のための勉強」ではなく「生活に密着したことを学ぶ」の意識で取り組んでください。
・普段の授業の取り組み方を重視します。

□テキスト

・メイクセラピー入門　３級対策
・メイクセラピー検定　２級対策

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	印象分析Ⅰ	印象分析とコミュニケーション
2	印象分析Ⅱ	表情による印象の違い
3	色彩の知識Ⅰ	色彩学・光について
4	色彩の知識Ⅱ	色の三属性
5	色彩の知識Ⅲ	色の演習
6	色彩心理	色彩心理・身体への作用
7	パーソナルカラー理論	パーソナルカラーとは
8	パーソナルカラー演習	演習
9	色を活かしたメイク理論	印象を色で表現する
10	色を活かしたメイクⅠ	要望に応える色の選択
11	色を活かしたメイクⅡ	クライアントの要望に応えた色の選択（ロープレ）
12	メイクセラピー研究Ⅰ	グループ研究
13	メイクセラピー研究Ⅱ	グループ研究　実践
14	メイクセラピー研究Ⅲ	発表
15	定期試験	

科目名	ＰＯＰ広告デザイン演習			担当教員		上田　都美江		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	１年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	チーフデザイナーの役職にも就き企業のデザイン室に８年勤務。その後デザイン研究所を 25 年以上主宰。ディスプレイや商品企画デザイン・テレビ CM 制作の経験をもとに現場で役立つ技能を基礎から教授します。						

□位置付け

広告デザインの基礎知識を学び、実技による種々の広告品を実際に制作し、効果的な POP 広告について学ぶ科目である。

□授業の目的

・広告宣伝デザインの基礎を学ぶ。
・実技課題を制作して体得する。
・職場でのコミュニケーションツールとしてのＰＯＰ広告（Point of purchase advertising）を理解する。

□授業の到達目標

ＰＯＰの実践的な課題を制作することにより、職場で生かせる技能を習得することを目標とする。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

随時試験は授業毎の制作で判断する。

□学生へのメッセージ

デザイン造形の未経験者も、楽しく制作をしながら理解していくことができます。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

テーマに応じて、その都度指示する。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	全て実技で課題を制作する。
2	ロゴタイプ演習①	
3	ロゴタイプ演習②	
4	色彩研究演習①	
5	色彩研究演習②	
6	レイアウト演習①	
7	レイアウト演習②	
8	イラストレーション演習①	
9	イラストレーション演習②	
10	季節感を表現　演習①春	
11	季節感を表現　演習②夏	
12	季節感を表現　演習③秋	
13	季節感を表現　演習④冬	
14	ポップアップテクニック演習	
15	定期試験	

くすり・調剤事務科　　２年生

くすり・調剤事務科　2020年度生カリキュラム

科目区分		科　目　名	授業形態	1年次		2年次		合計	
履修方法	科目内容			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	基礎科目	書く技術・伝える技術Ⅰ	講義	2	30			2	30
		書く技術・伝える技術Ⅱ	講義	2	30			2	30
		パソコン演習Ⅰ	演習	2	30			2	30
		パソコン演習Ⅱ	演習	2	30			2	30
		パソコン演習Ⅲ	演習			2	30	2	30
		パソコン演習Ⅳ	演習			2	30	2	30
		サービス接遇Ⅰ	講義	2	30			2	30
		サービス接遇Ⅱ	講義	2	30			2	30
		キャリアデザインⅠ	演習	2	30			2	30
		キャリアデザインⅡ	演習	2	30			2	30
		キャリアデザインⅢ	演習			2	30	2	30
		キャリアデザインⅣ	演習			2	30	2	30
	専門科目	応対の技術	演習	2	30			2	30
		人体の構造	講義	2	30			2	30
		医薬品の安全学	講義	2	30			2	30
		医薬品の作用Ⅰ	講義	2	30			2	30
		医薬品の作用Ⅱ	講義	2	30			2	30
		医薬品の作用Ⅲ	講義	2	30			2	30
		医薬品の関連法規	講義	2	30			2	30
		食品栄養学Ⅰ	演習	2	30			2	30
		食品栄養学Ⅱ	演習			2	30	2	30
		調剤事務Ⅰ	講義	2	30			2	30
		調剤事務Ⅱ	講義	2	30			2	30
		調剤事務Ⅲ	講義			2	30	2	30
		主な医薬品の薬理学Ⅰ	講義			2	30	2	30
		主な医薬品の薬理学Ⅱ	講義			2	30	2	30
		主な医薬品の薬理学Ⅲ	講義			2	30	2	30
		主な医薬品の薬理学Ⅳ	講義			2	30	2	30
		主な医薬品の薬理学演習	演習			2	30	2	30
		サプリメントアドバイザーⅠ	講義			2	30	2	30
		サプリメントアドバイザーⅡ	講義			2	30	2	30
		病気とヘルスケア	講義	2	30			2	30
		漢方の知識	講義	2	30			2	30
		販売士の知識Ⅰ	講義			2	30	2	30
		販売士の知識Ⅱ	講義			2	30	2	30
		販売士の知識Ⅲ	講義			2	30	2	30
		OTC薬の基本と応対技術	演習			2	30	2	30
		薬店実習	実習			1	30	1	30
		校外見学Ⅰ	演習	2	30			2	30
		校外見学Ⅱ	演習			2	30	2	30
		美容実習Ⅰ	実習	1	30			1	30
		美容実習Ⅱ	実習	1	30			1	30
		美容実習Ⅲ	実習	1	30			1	30
		美容実習Ⅳ	実習	1	30			1	30
		美容・肌の基礎知識Ⅰ	演習	2	30			2	30
		美容・肌の基礎知識Ⅱ	演習	2	30			2	30
		化粧品の成分学	演習			2	30	2	30
		レベルアップメイクⅠ	演習			2	30	2	30
		レベルアップメイクⅡ	演習			2	30	2	30
		トータルビューティ	演習			2	30	2	30
		社会人としてのマナー＆コミュニケーション	演習			2	30	2	30
	関連科目	手話Ⅰ	演習			2	30	2	30
		手話Ⅱ	演習			2	30	2	30
		POP広告デザイン演習	演習	2	30			2	30
		売り場のグラフィックデザイン演習	演習			2	30	2	30
		介護保険制度の仕組みと流れ	演習			2	30	2	30
		病院の仕組みと流れ	講義			2	30	2	30
		介護レクリエーション演習	演習			2	30	2	30
合　計				52	840	59	900	111	1,740

※くすり・調剤事務科の卒業には、修業年限以上在学し、1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	パソコン演習Ⅲ			担当教員		青山　みどり		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	プログラマーとしてシステム開発会社に 2 年間勤務後、保険会社にて顧客データの管理・関連事務に 3 年間携わる。自身の経験をもとに、Office アプリを適切に活用できるよう指導する。						

□位置付け

ワープロソフト「Microsoft Word」・表計算ソフト「Microsoft Excel」・プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint」などのスキルアップを図り、それらを活用してテーマごとに発表する原稿を作成、発表することを学ぶ科目である。

□授業の目的

社会人基礎力としてのパソコンの活用方法を習得し、社会人になった際、職場のコンピュータ環境に対応できるようコンピュータリテラシーの知識を身につける。

□授業の到達目標

１．1 年次の学習内容を復習し、テキストなどを参照せずに Microsoft Office アプリの基本操作が行えるようになる
２．タッチタイピングによる正確なキーボード入力のスキルアップを目指す
３．現場のニーズに対応できるワープロソフト「Microsoft Word」の活用方法を習得する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		5
試験等	提出物	30
	レポート	―
	随時試験	―
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	5
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

試験、出席状況、授業への参加度などを対象として総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

現場の要求に応じ、的確なドキュメントが作成できるよう、ビジネスシーンを想定した問題にも取り組んでもらいます。他の教科の学習にも関わります。幅広く学びましょう。

□テキスト

*情報リテラシー アプリ編<改訂版>

*資料ファイル「パソコン演習」

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、ファイルの基本操作
2	Word 基礎 復習①	簡単な文書作成
3	Word 基礎 復習②	表入りのビジネス文書
4	Word 基礎 復習③	図入りのちらし、SmartArt の利用
5	Excel 基礎 復習①	基本的な関数・絶対参照が入った表作成
6	Excel 基礎 復習②	グラフ作成
7	Excel 基礎 復習③	データベース機能
8	PowerPoint 基礎 復習	テキスト、図、表入りのスライド作成
9	Word 活用①	ページ罫線、ワードアートの挿入
10	Word 活用②	段組み、タブとリーダー
11	Word 活用③	見出しの設定、脚注の挿入
12	Word 活用④	検索と置換、コメントの利用
13	Word 活用＜課題＞	Word 活用の機能を使った文書作成
14	定期試験	テーマに応じたドキュメントを Word で作成
15	前期総括	試験解説、前期補足

科目名	パソコン演習Ⅳ			担当教員		青山　みどり		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	プログラマーとしてシステム開発会社に２年間勤務後、保険会社にて顧客データの管理・関連事務に３年間携わる。自身の経験をもとに、Officeアプリを適切に活用できるよう指導する。						

□位置付け

ワープロソフト「Microsoft Word」・表計算ソフト「Microsoft Excel」・プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint」などのスキルアップを図り、それらを活用してテーマごとに発表する原稿を作成、発表することを学ぶ科目である。

□授業の目的

社会人基礎力としてのパソコンの活用方法を習得し、社会人になった際、職場のコンピュータ環境に対応できるようコンピュータリテラシーの知識を身につける。

□授業の到達目標

１．タッチタイピングによる正確なキーボード入力のスキルアップを目指す
２．現場のニーズに対応できるよう、表計算ソフト「Microsoft Excel」・プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint」の活用方法を習得する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		5
試験等	提出物	20
	レポート	―
	随時試験	10
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	5
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

試験、出席状況、授業への参加度などを対象として総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

現場の要求に応じ、的確なドキュメントおよびプレゼンテーションが作成できるよう、ビジネスシーンを想定した問題にも取り組んでもらいます。
他の教科の学習にも関わります。幅広く学びましょう。

□テキスト

*情報リテラシー　アプリ編<改訂版>

*資料ファイル「パソコン演習」

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	前期の復習	前期末試験の返却・解説
2	Excel 活用①	データの集計、印刷タイトル、複数シートの操作
3	Excel 活用②	関数応用（IF,AND,OR,VLOOKUP,COUNT,FREQUENCY など）
4	Excel 活用＜課題＞	様々な関数を使った表作成
5	Excel 活用③	ユーザー定義の表示形式、条件付き書式
6	Excel 活用④	高度なグラフの作成、
7	Excel 活用⑤	ピボットテーブルとピボットグラフ、マクロの作成
8	Excel 活用＜課題＞	高度なグラフを含んだ表作成
9	PowerPoint 活用①	オブジェクトの挿入、別アプリのデータを利用
10	PowerPoint 活用②	スライド共通デザインの設定、スライドショーの機能
11	PowerPoint 活用＜課題＞	PowerPoint 活用の機能を使ったスライド作成
12	PowerPoint 発表会準備	発表会用作品制作
13	PowerPoint 発表会①	作品発表会
14	PowerPoint 発表会②	
15	定期試験	タイピング、テーマに応じたドキュメントを Excel で作成

科目名	キャリアデザインⅢ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

年間の運営計画に基づくクラス活動（ホームルーム）で、学生とクラス担当が学年、学期ごとの学習目標や学校生活上の課題の解決を図りながら、円滑にコミュニケーションを維持、増進する基本時間であり、またキャリアサポートプログラム（WCSP）による就職活動を含む進路選択の支援、指導などを行う科目である。

□授業の目的

・学校生活と日常の学習及び検定、就職活動などに関わる連絡事項の周知徹底。
・就職活動に必要な情報提供と実地練習などによる就職活動支援。
・クラス担任による学習及び学校生活、就職活動などの日常指導、また課外活動や学校行事の参加準備。

□授業の到達目標

・諸連絡事項をタイムリーに正確に伝達し、クラス全員に周知徹底する。
・キャリアサポートセンターと協力した就職活動の支援、指導により、学生の希望する就職内定を実現する。
・学習及び学校生活、就職活動などの日常指導を適宜実施し、課外活動や学校行事などにも協力して取り組む。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		40
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	－
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	60
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
出席と学生の授業への取組み姿勢、態度により評価いたしますので、積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ
就職活動、検定試験と２年間で１番多忙な時期ですので、体調とスケジュール管理に気を付けましょう。

□テキスト
・就職活動ノート

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	キャリアサポートプログラム①	1年次振り返りと前期目標設定･就職活動状況確認
2	企業説明会①	
3	キャリアサポートプログラム②	内定後の提出書類等の確認
4	1・2年生合同授業	学生生活に関する情報交換・交流
5	学級運営	諸連絡・避難訓練
6	企業説明会②	
7	企業説明会③	
8	企業説明会④	
9	資格試験対策①	
10	資格試験対策②	登録販売者試験対策
11	資格試験対策③	登録販売者試験対策
12	資格試験対策④	登録販売者試験対策
13	資格試験対策⑤	登録販売者試験対策
14	キャリアサポートプログラム③	前期の振り返り、夏休みの計画作成
15	秋休みの過ごし方	夏休みの振り返りと秋休みの計画作成

科目名	キャリアデザインⅣ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

年間の運営計画に基づくクラス活動（ホームルーム）で、学生とクラス担当が学年、学期ごとの学習目標や学校生活上の課題の解決を図りながら、円滑にコミュニケーションを維持、増進する基本時間であり、またキャリアサポートプログラム（WCSP）による就職活動を含む進路選択の支援、指導などを行う科目である。

□授業の目的

・学校生活と日常の学習及び検定などに関わる連絡事項の周知徹底。
・就職活動に必要な情報提供と実地練習などによる就職活動支援。
・クラス担任による学習及び学校生活、就職活動などの日常指導、また課外活動や学校行事の参加準備。

□授業の到達目標

・諸連絡事項をタイムリーに正確に伝達し、クラス全員に周知徹底する。
・学習及び学校生活、就職活動などの日常指導を適宜実施し、課外活動や学校行事などにも協力して取り組む。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		40
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	－
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	60
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
出席と学生の授業への取組み姿勢、態度により評価いたしますので、積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ
卒業まであと少し。学生のうちに多くの知識を身に着け、資格試験にチャレンジしましょう。

□テキスト
・就職活動ノート

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	キャリアサポートプログラム①	前期の振り返りと後期目標設定
2	オリエンテーション	検定試験のスケジュール
3	校内行事準備①	学園祭準備
4	校内行事準備②	学園祭準備
5	校内行事準備③	学園祭準備
6	スキルアッププログラム①	ダイバーシティー
7	スキルアッププログラム②	メンタルケア
8	スキルアッププログラム③	医療用医薬品
9	スキルアッププログラム④	医療用医薬品
10	スキルアッププログラム⑤	医療用医薬品
11	1・2年生合同授業	学生生活に関する情報交換・交流
12	スキルアッププログラム⑥	テーピングの知識
13	スキルアッププログラム⑦	漢方の知識
14	スキルアッププログラム⑧	税の知識
15	キャリアサポートプログラム②	後期の振り返りと社会人としての目標設定

科目名	食品栄養学Ⅱ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	化粧品・健康食品販売員教育担当として販売員の接客・知識・技術の指導を行う傍ら、教育用資材の作成・店舗運営を４年間経験。接客・店舗運営の知識を包括的に伝え、即戦力となる人材の育成を目指す。						

□位置付け

健康維持に重要かつ必要な要素の一つである食生活の内容を、食品栄養学的に、理論的、かつ分かりやすくアドバイスができる知識を学ぶ科目である。

□授業の目的

私たちの体は食べたものにより作られます。栄養学は健康の維持、増進だけでなく病気の予防、治療にも欠かせません。栄養学Ⅰで学んだ知識を活用し、顧客の栄養状態を適切に把握しライフステージ、生活状況などに合わせた提案ができるようになることを目的としています。

□授業の到達目標

・顧客の栄養状況を把握するカウンセリング力を身に付ける。
・各ライフステージの状態と不足しやすい栄養素について理解する。
・サプリメントについての理解を深め、提案する能力を身に付ける。
・栄養素の適切な摂取方法を提案する能力を身に付ける。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく随時試験、授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

自分の食べているものに関心を持つことが勉強に繋がります。
取り入れることのできるものから実践してみましょう。
※調理実習は感染症の流行状況により実施できない場合があります。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

ＮＲ・サプリメントアドバイザー必携

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	５大栄養素復習
2	ライフステージ別栄養素	乳幼児期、学童期の食事
3	〃	青年期～壮年期の食事
4	〃	妊娠・授乳期に必要な食事
5	〃	老年期の食事
6	〃	筋肉をつけるための食事
7	〃	減量用の食事
8	生活習慣病と栄養素	糖尿病と食事
9	〃	高血圧と食事
10	〃	脂質異常症と食事
11	調理実習準備	計画書作成
12	調理実習	計画書に基づき実際に調理を行う（２コマ連続授業）
13	〃	〃
14	総復習	まとめ
15	定期試験	

科目名	調剤事務Ⅲ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

調剤薬局業務に必要な、医療保険制度、調剤報酬請求の算定方法、レセプト作成、関連法規などを学ぶ科目である。

□授業の目的

調剤事務員として勤務するために欠かせない医療保険制度などの知識を習得し、調剤報酬レセプトを作成する技術を身に付ける。

□授業の到達目標

・医療保険制度を理解する。
・調剤事務員に求められる接客、接遇を理解する。
・加算の内容を理解し、正しいレセプトを作成できる。
・レセプトコンピューターでの入力方法を身に着ける。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	－
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく随時試験、授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ
検定試験に向け知識を確実なものにし、スピードアップを目指しましょう。
見直しをする癖をつけることも大切です。

□テキスト

・ソラスト調剤薬局事務講座１～４
・調剤試験問題集　・レセプト用紙
・USB メモリー（PC 使用時のみ）

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	前期の復習
2	過去問題	問題演習・解答解説
3	〃	〃
4	〃	模擬試験（２コマ連続授業）
5	〃	〃
6	〃	模擬試験解答解説
7	会計表	記載の仕方・問題演習・解答解説
8	PC を用いた入力	基本的な入力方法
9	〃	各種加算の入力方法
10	〃	問題演習・解答解説
11	〃	〃
12	〃	〃
13	総復習	問題演習・解答解説
14	〃	〃
15	定期試験	

科目名	主な医薬品の薬理学Ⅰ			担当教員		渋谷 大樹		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

医薬品の人体に対する主作用、副作用などについて、登録販売者試験に合格できるレベルの内容を学ぶ科目である。

□授業の目的

厚生労働省の「試験実施ガイドライン」に沿った出題形式で、登録販売者・練習問題（第１、２章）を解き、解答・解説を理解することで、本試験の傾向や重要度を、効果的・重点的に学習する。

□授業の到達目標

実践的な試験問題に挑戦することで、最終的に登録販売者試験の合格レベル（80%以上）に到達することを目標にする。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	80
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

毎回の練習問題を通して、問題の傾向や解答のスピードを習得し、苦手な項目などは単語帳などを活用し、常に自分の手元に置き、確認できるようにするとよい。

□テキスト

登録販売者試験　受験対策　共通テキスト　上巻
過去問題集

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	練習問題（第１章）	医薬品に共通する特性と基本的な知識
2	練習問題（第１章）	医薬品に共通する特性と基本的な知識
3	練習問題（第１章）	医薬品に共通する特性と基本的な知識
4	練習問題（第１章）	医薬品に共通する特性と基本的な知識
5	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
6	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
7	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
8	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
9	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
10	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
11	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
12	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
13	練習問題（第２章）	人体の働きと医薬品
14	問題演習	
15	定期試験	第１、２章全般

科目名	主な医薬品の薬理学Ⅱ			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に 37 年間の医薬品関連の実務経験と 11 年間の教師としての実務経験をもとに、ヘルスケアについての授業を行います。						

□位置付け

医薬品の人体に対する主作用、副作用などについて、登録販売者試験に合格できるレベルの内容を学ぶ科目である。

□授業の目的

登録販売者試験対策テキスト（下）のチェックポイントを覚えながら、一般用医薬品の知識を身につけるとともに、登録販売者試験に合格することを目的にしている。

□授業の到達目標

登録販売者試験に合格できるレベルを到達目標としている。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	30
	作文	―
	随時試験	30
	定期試験	―
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・出席状況、授業態度、提出物（課題、宿題など）、随時試験で成績を評価します

□学生へのメッセージ

・チェックポイントを通して、登録販売者試験に合格して、就職後に役に立つ医薬品の知識を身につけましょう

□テキスト

・登録販売者試験対策テキスト（下）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	第 3 章精神神経に作用する薬	チェックポイントを通して、テキスト内容を覚える
2	〃	〃
3	第 3 章呼吸器に作用する薬	小テスト、チェックポイントを通して、テキスト内容を覚える
4	第 3 章胃腸に作用する薬	〃
5	第 3 章心臓などに作用する薬	〃
6	第 3 章アレルギー用薬	〃
7	第 3 章婦人薬	〃
8	第 3 章皮膚に用いる薬	〃
9	〃	チェックポイントを通して、テキスト内容を覚える
10	第 3 章滋養強壮保健薬	小テスト、チェックポイントを通して、テキスト内容を覚える
11	第3章漢方処方製剤	〃
12	第3章公衆衛生用薬	〃
13	第 3 章一般用検査薬	〃
14	総復習	総合問題
15	総復習	総合問題

科目名	主な医薬品の薬理学Ⅲ			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に 37 年間の医薬品関連の実務経験と 12 年間の教師としての実務経験をもとに、ヘルスケアについての授業を行います。						

□位置付け

医薬品の人体に対する主作用、副作用などについて、登録販売者試験に合格できるレベルの内容を学ぶ科目である。

□授業の目的

登録販売者試験対策テキスト（下）の模擬問題を演習しながら、一般用医薬品の知識を身につけるとともに、登録販売者試験に合格することを目的にしている。

□授業の到達目標

登録販売者試験に合格できるレベルを到達目標としている。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	30
	作文	―
	随時試験	30
	定期試験	―
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	―
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・出席状況、授業態度、提出物（課題、宿題など）、随時試験で成績を評価します

□学生へのメッセージ

・模擬問題を通して、登録販売者試験に合格して、就職後に役に立つ医薬品の知識を身につけましょう

□テキスト

・登録販売者試験対策テキスト（下）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	第 3 章精神神経に作用する薬	模擬問題、解説･復習
2	〃	〃
3	第 3 章呼吸器に作用する薬	〃
4	第 3 章胃腸に作用する薬	〃
5	第 3 章心臓などに作用する薬	〃
6	第 3 章アレルギー用薬	〃
7	第 3 章婦人薬	〃
8	第 3 章皮膚に用いる薬	〃
9	〃	〃
10	第 3 章滋養強壮保健薬	〃
11	第3章章漢方処方製剤	〃
12	第3章公衆衛生用薬	〃
13	第 3 章一般用検査薬	〃
14	総復習	総合問題
15	総復習	総合問題

科目名	主な医薬品の薬理学Ⅳ			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

医薬品の人体に対する主作用、副作用などについて、登録販売者試験に合格できるレベルの内容を学ぶ科目である。

□授業の目的

厚生労働省の「試験実施ガイドライン」に沿った出題形式で、登録販売者・練習問題（第４・５章）を解き、解答・解説を理解することで、本試験の傾向や重要度を効果的・重点的に学習する。個人ばかりでなく、グループ全体として連帯感をもたせるために、グループ討議も採用しながら全体のレベルアップを目標にする。

□授業の到達目標

実践的な試験問題に挑戦することで、最終的に登録販売者試験の合格レベル（80%以上）に到達することを目標にする。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

毎回の練習問題を通して、問題の傾向や解答のスピードを習得し、苦手な項目などは単語帳などを活用し、常に自分の手元に置き、確認できるようにするとよい。

□テキスト

・登録販売者試験対策問題集（薬事日報社）
・練習問題集（プリント）
・登録販売者試験受験対策　共通テキスト　上巻

□参考図書・資料・参考ホームページ

・登録販売者試験受験対策　共通テキスト・下巻
（有限責任中間法人　日本薬業研修センター）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	練習問題（第４章）	小テスト①＋グループ討議　薬事関係法規・制度
2	練習問題（第４章）	小テスト②＋グループ討議　薬事関係法規・制度
3	練習問題（第４章）	小テスト③＋グループ討議　薬事関係法規・制度
4	練習問題（第４章）	小テスト④＋グループ討議　薬事関係法規・制度
5	練習問題（第４章）	小テスト⑤＋グループ討議　薬事関係法規・制度
6	練習問題（第４章）	小テスト⑥＋グループ討議　薬事関係法規・制度
7	中間試験及び解説	総合問題（第４章全般）
8	練習問題（第５章）	小テスト⑦＋グループ討議　医薬品の適正使用・安全対策
9	練習問題（第５章）	小テスト⑧＋グループ討議　医薬品の適正使用・安全対策
10	練習問題（第５章）	小テスト⑨＋グループ討議　医薬品の適正使用・安全対策
11	練習問題（第５章）	小テスト⑩＋グループ討議　医薬品の適正使用・安全対策
12	練習問題（第５章）	小テスト⑪＋グループ討議　医薬品の適正使用・安全対策
13	練習問題（第５章）	小テスト⑫＋グループ討議　医薬品の適正使用・安全対策
14	中間試験及び解説	総合問題（第５章全般）
15	定期試験	総合問題（第４・５章全般）

科目名	主な医薬品の薬理学演習			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に 37 年間の医薬品関連の実務経験と 12 年間の教師としての実務経験をもとに、医薬品の薬理学の授業を行います。						

□位置付け

登録販売者試験領域の試験対策に特化した科目である。

□授業の目的

登録販売者試験の過去問題集の演習を通して、一般用医薬品の知識を身につけるとともに、登録販売者試験に合格することを目的にしている。

□授業の到達目標

登録販売者試験に合格できるレベルを到達目標としている。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	30
	作文	
	随時試験	30
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・出席状況、授業態度（積極性など）、提出物（課題、宿題など）、随時試験などの成績で評価します

□学生へのメッセージ

・登録販売者試験に合格して、就職後に役に立つ医薬品の知識を身につけましょう

□テキスト

・登録販売者試験過去問題集
（日本薬業研修センター）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	第 3 章精神神経に作用する薬	過去問題集の演習を通して、主な医薬品とその作用について理解する
2	第 3 章呼吸器に作用する薬	〃
3	第 3 章胃腸に作用する薬	〃
4	第 3 章心臓などに作用する薬	〃
5	第 3 章アレルギー用薬	〃
6	第 3 章婦人薬	〃
7	第 3 章皮膚に用いる薬	〃
8	第 3 章滋養強壮保健薬	〃
9	第 3 章漢方処方製剤	〃
10	第 3 章公衆衛生用薬	〃
11	第 4 章薬事関連法規（1）	〃
12	第 4 章薬事関連法規（2）	〃
13	第 2 章人体の働きと薬	〃
14	第 1 章、第 5 章その他	〃
15	都道府県過去問題	演習

科目名	サプリメントアドバイザーⅠ			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務科			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

基礎の生理学、生化学、栄養学、臨床薬理学などを学びながら、健康食品や食品機能の科学的根拠などを学ぶ科目である。

□授業の目的

健康志向と「保健機能食品制度」施行といった時代背景を受けて、消費者の健康維持・増進、生活習慣病予防の目的のために摂取する食品・サプリメントが持つ機能及び活用方法について、正しく情報を提供し指導できる NR サプリメントアドバイザーを育成する。

□授業の到達目標

日本臨床栄養協会監修のテキスト「第 2 版 NR サプリメントアドバイザー必携」の全章の基礎をマスターする。過去問題集や実践的な練習問題に挑戦することで、最終的に NR サプリメントアドバイザーの合格レベル（70%以上）に到達することを目標にする。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		50
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください。

□テキスト

・第 4 版 NR サプリメントアドバイザー必携

□参考図書・資料・参考ホームページ

・日本臨床栄養協会ＨＰ
・過去問題（コピー）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	役割と倫理①１章	サプリメントアドバイザーの役割（企業と社会的）
2	基礎の生理学①２章	身体の構造と機能、消化と吸収
3	基礎の生理学②２章	自律神経とストレス
4	基礎の生理学③２章	内分泌とホルモンの作用
5	基礎の生化学①３章	糖質・脂質・アミノ代謝、核酸の化学とたんぱく質合成
6	基礎の生化学②３章	血液の働き、免疫、酵素の化学
7	基礎の生化学③３章	自律神経とストレス、内分泌とホルモンの作用
8	人間栄養学①第４章	栄養学概説、栄養素の機能
9	人間栄養学②第４章	日本人の食事摂取基準
10	生活習慣病概論①５章	生活習慣病とは、日本人の疾病、遺伝的要因と環境要因、
11	生活習慣病概論②５章	特定健康診査と特定保健指導
12	生活習慣病概論③５章	生活習慣病各論、タバコとアルコール、生活習慣と疾患
13	臨床栄養と臨床検査①６章	臨床栄養
14	臨床栄養と臨床検査②６章	臨床検査
15	定期試験	テキストの範囲を中心に出題します

科目名	サプリメントアドバイザーⅡ			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務科			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

基礎の生理学、生化学、栄養学、臨床薬理学などを学びながら、健康食品や食品機能の科学的根拠などを学ぶ科目である。

□授業の目的

健康志向と「保健機能食品制度」施行といった時代背景を受けて、消費者の健康維持・増進、生活習慣病予防の目的のために摂取する食品・サプリメントが持つ機能及び活用方法について、正しく情報を提供し指導できる NR サプリメントアドバイザーを育成する。

□授業の到達目標

日本臨床栄養協会監修のテキスト「第 2 版 NR サプリメントアドバイザー必携」の全章の基礎をマスターする。過去問題集や実践的な練習問題に挑戦することで、最終的に NR サプリメントアドバイザーの合格レベル（70%以上）に到達することを目標にする。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		50
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください。

□テキスト

・第 4 版 NR サプリメントアドバイザー必携

□参考図書・資料・参考ホームページ

・日本臨床栄養協会ＨＰ
・過去問題（コピー）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	身体活動と栄養７章①	身体活動に関するエッセンス、生活習慣病の予防と治療の運動療法
2	身体活動と栄養７章②	ライフステージと身体活動、スポーツ医学と栄養
3	食品安全衛生学８章①	食品の安全とリスク分析、衛生管理
4	食品安全衛生学８章②	食品の安全性確保、健康食品のリスクコミュニケーション
5	健康食品９章①	特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品ほか
6	健康食品９章②	特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品ほか
7	臨床薬理学１０章	医薬品とは、医薬品の作用と効力、投与経路と剤形ほか
8	臨床薬理学１０章	医薬品とは、医薬品の作用と効力、投与経路と剤形ほか
9	食品機能の科学的根拠１１章	医薬品との相互作用
10	食品機能の科学的根拠１１章	食品との相互作用
11	行動科学とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ１２章	現代心理学、学習理論
12	行動科学とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ１２章	保健指導と心理学ほか
13	国内外の関連法規１３章	景品表示法、ＪＡＳ法、海外の関連法規と将来展望ほか
14	事例研究①	保健機能食品（特保、機能性表示食品、サプリメント）
15	定期試験	テキストの範囲を中心に出題します

科目名	販売士の知識Ⅰ			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務科			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

流通・販売分野における店舗管理、販売・経営管理、マーケティングなどの基本を学ぶ科目である。

□授業の目的

ここ数年、地域の生活者のプラットホームとしてのコンビニやドラッグストア、調剤薬局、化粧品専門店などの健康産業の果たすべき役割が重要になっています。そこで今後は、小売業に従事する担当者・販売員は販売技術だけでなく、消費者動向を読み取る能力なども身に付ける必要があります。この授業では、小売業を運営する基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を体系的に学びます。

□授業の到達目標

①小売業を運営する基本的な仕組みを理解する
②販売員としての基礎的な知識を理解する
③販売士検定3級の受験資格を得て、合格を目標とする

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	—
	レポート	—
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	—
	その他（　　）	—
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください

□テキスト

・販売士ハンドブック（基礎編）
リテールマーケレテイング販売士検定３級対応

□参考図書・資料・参考ホームページ

・販売士検定３級　対策問題集（コピー対応）
・販売士検定３級　速習テキスト&問題集
（ ユーキャン自由国民社 ）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	第１章　小売業の類型①	小売業の定義と役割①　（＋ビデオ講義）
2	小売業の類型②	小売業の定義と役割①　（＋ビデオ講義）
3	小売業の類型③	小売業の国際化　（＋ビデオ講義）
4	小売業の類型④	流通経路の基礎知識①　（＋ビデオ講義）
5	小売業の類型⑤	流通経路の基礎知識②　（＋ビデオ講義）
6	小売業の類型⑥	販売形態の種類と特徴①（＋ビデオ講義）
7	中間試験及び解説	第１章の重要ポイントとまとめ
8	小売業の類型⑦	販売形態の種類と特徴②（＋ビデオ講義）
9	小売業の類型⑧	業種と業態の違い①　（＋ビデオ講義）
10	小売業の類型⑨	チェーンストアの特徴①（＋ビデオ講義）
11	小売業の類型⑩	チェーンストアの特徴②（＋ビデオ講義）
12	小売業の類型⑪	チェーンストアの特徴③（＋ビデオ講義）
13	小売業の類型⑫	商店街と SC　（＋ビデオ講義）
14	中間試験及び解説	１章の重要ポイントとまとめ
15	定期試験	テキストの範囲を中心に出題します

科目名	販売士の知識Ⅱ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務科			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	授業期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	化粧品・健康食品販売員教育担当として販売員の接客・知識・技術の指導を行う傍ら、教育用資材の作成・店舗運営を４年間経験。接客・店舗運営の知識を包括的に伝え、即戦力となる人材の育成を目指す。						

□位置付け

流通・販売分野における店舗管理、販売・経営管理、マーケティングなどの基本を学ぶ科目である。

□授業の目的

店舗管理には商品管理、数計管理、人事管理など多くの知識が求められます。将来活躍する販売員、店舗管理者となるため、流通、小売りなどに関する知識を幅広く学び、物事を多角的に捉えることが出来る思考力を身に付けることをこの授業の目標とする。

□授業の到達目標

・専門用語を理解し、説明できる。
・ターゲットに合わせた商品、売り場、店舗の提案ができる。
・商品やターゲットごとにどのようなプロモーションを行うとよいか理解している。
・販売士３級の合格を目指す。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく随時試験、授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

大手ドラッグストアでも導入されている資格試験です。
学生生活最後の試験に向けて頑張りましょう。

□テキスト

販売士ハンドブック下巻

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ストアオペレーション①	利益向上の手法
2	ストアオペレーション②	売り場作り
3	ストアオペレーション③	包装
4	ストアオペレーション④	ディスプレイ
5	ストアオペレーション⑤	スタッフ管理
6	ストアオペレーション⑥	顧客の心理と応対
7	小テスト	ストアオペレーション
8	マーケティング①	マーケティングとは
9	マーケティング②	顧客管理
10	マーケティング③	各種プロモーション
11	マーケティング④	売り場の作り方
12	小テスト	マーケティング
13	検定試験対策①	問題演習、解答解説
14	検定試験対策②	問題演習、解答解説
15	定期試験	

科目名	販売士の知識Ⅲ			担当教員		鈴木　啓悟		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務科			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	研修・人材ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社を 26 年経営。医薬業界の指導実績多数。資格保有者（登録販売者、NR ｻﾌﾟﾘﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）として実践指導を重視する。						

□位置付け

流通・販売分野における店舗管理、販売・経営管理、マーケティングなどの基本を学ぶ科目である。

□授業の目的

ここ数年、地域の生活者のプラットホームとしてのコンビニやドラッグストア、調剤薬局、化粧品専門店などの健康産業の果たすべき役割が重要になっています。そこで今後は、小売業に従事する担当者・販売員は販売技術だけでなく、消費者動向を読み取る能力なども身に付ける必要があります。この授業では、小売業を運営する基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を体系的に学びます。

□授業の到達目標

①小売業を運営する基本的な仕組みを理解する
②販売員としての基礎的な知識を理解する
③販売士検定3級の受験資格を得て、合格を目標とする

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	—
	レポート	—
	随時試験	20
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	—
	その他（　　）	—
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業の出席状況は、規定時間数以上の出席をクリアすること
・試験は、テキストを中心とした範囲で出題し、合格点数で成績評価します

□学生へのメッセージ

・テキストの事前予習と復習をするとともに、日常生活で体験した事例を関連づけて、学習効果をより高めてください

□テキスト

・販売士ハンドブック（基礎編）
リテールマーケレテイング販売士検定３級対応

□参考図書・資料・参考ホームページ

・販売士検定３級　対策問題集（コピー対応）
・販売士検定３級　速習テキスト&問題集
（ ユーキャン自由国民社 ）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	第２章マーチャンダイジング①	商品とは、商品分類と本体要素　（＋ビデオ講義）
2	第２章マーチャンダイジング②	マーチャンダイジングの基本　（＋ビデオ講義）
3	第２章マーチャンダイジング③	商品計画の基本と棚割　（＋ビデオ講義）
4	第２章マーチャンダイジング④	仕入計画の基本と仕入先・仕入れ方法　（＋ビデオ講義）
5	第２章マーチャンダイジング⑤	発注・物流の基本　（＋ビデオ講義）
6	第２章マーチャンダイジング⑥	価格設定の基本、在庫管理の基本など　（＋ビデオ講義）
7	中間試験及び解説	第２章の重要ポイントとまとめ
8	第５章　販売・経営管理①	販売員の役割の基本　（＋ビデオ講義）
9	第５章　販売・経営管理②	販売員の法令知識①　（＋ビデオ講義）
10	第５章　販売・経営管理③	販売員の法令知識②　（＋ビデオ講義）
11	第５章　販売・経営管理④	小売業の計数管理①　（＋ビデオ講義）
12	第５章　販売・経営管理⑤	小売業の計数管理②　（＋ビデオ講義）
13	第５章　販売・経営管理⑥	店舗管理の基本　（＋ビデオ講義）
14	中間試験及び解説	第５章の重要ポイントとまとめ
15	定期試験	テキストの範囲を中心に出題します

科目名	OTC 薬の基本と応対技術			担当教員		中村　博臣		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師として、企業に 37 年間の医薬品関連の実務経験と 12 年間の教師としての実務経験をもとに OTC 薬についての授業を行います。						

□位置付け

いままで学んできた一般用医薬品の知識を再確認し、それらの知識を活用して、実際の相談を想定しながら応対する技術を学ぶ科目である。

□授業の目的

OTC 薬の基本を理解し、ケース応対の知識と技術を習得することを目標としている。

□授業の到達目標

ケース応対の際に、お客さまの症状に最適な OTC 薬が選択でき、かつ、わかりやすい説明ができるレベルを到達目標とする。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	50
	レポート	―
	随時試験	―
	定期試験	―
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

提出物のほかに、出席状況、授業態度（積極的な発言など）により、総合的に評価します

□学生へのメッセージ

OTC 薬に関しての総合的な知識の集約ですので、就職後の業務に役立てることができます

□テキスト

よくわかる一般用医薬品
（薬事日報ドーモ）

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	アドレナリン作動成分	配合されている一般用医薬品、副作用などについての応対
2	抗コリン成分	〃
3	局所麻酔・抗ヒスタミン成分	〃
4	解熱鎮痛ステロイド成分	〃
5	鎮静・鎮咳成分	〃
6	強心・コレステロール改善成分	〃
7	抗凝固成分、酵素成分	〃
8	収斂・保水・刺激成分	〃
9	ホルモン成分	〃
10	ミネラル成分	〃
11	ビタミン成分	〃
12	殺菌成分、生菌成分	〃
13	生薬成分	〃
14	漢方薬	〃
15	グループワーク（総復習）	ロールプレイ

科目名	薬店実習			担当教員		中村　博臣		単位数	1
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	実習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

薬店および薬店研修所において、調剤事務および調剤請求書作成の流れ、調剤自動機器操作を含めたピッキング実習、ドラッグストア店舗での実務の流れなどを体験するための科目である。

□授業の目的

薬店実習のオリエンテーション及び４日間の薬店実習を通して、学内で学んだ専門知識と実践技術との密接な関連を学びとり、職業観、勤労観を体得することを目的とする。

□授業の到達目標

調剤事務（ピッキングを含む）及びドラッグストア分野において、研修及び職業体験をすることで、卒業後の就業に役に立つレベルの知識・技術を習得することを到達目標とする。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		50
試験等	提出物	50
	作文	－
	随時試験	－
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・出席状況、実習報告書などで、総合的に成績を評価します

□学生へのメッセージ

・薬店実習を通して、医薬品業界についての理解をより深めてください

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	学内にて、実習先担当者による実習などについての説明(120 分)
2	薬店実習・第１日目	研修センターにての研修（9：30～17：30）
3	薬店実習・第２日目	研修センターにての研修（9：30～17：30）
4	薬店実習・第３日目	研修センターにての研修（9：30～17：30）
5	薬店実習・第４日目	店舗内にての研修（9：30～17：30）
6		
7		
8		
9		
10		
11		)
12		
13		
14		
15		

科目名	校外見学Ⅱ			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

医薬品、化粧品関連の工場、ミュージアム、展示会などへの見学を通して、学校で学んだ知識を直接、見聞、確認して、より幅広い知識にする科目である。

□授業の目的

関連業界の状況や動向などを実際に見聞し、知識を広めることを目的とした課外授業としている。

□授業の到達目標

関連業界の状況や動向を実際に見聞し、体験と把握することを到達目標としている。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		40
試験等	提出物	－
	レポート	60
	随時試験	－
	定期試験	－
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
出席、レポート提出がないと成績がつけられません。
体調管理と、期限までのレポート提出を徹底しましょう。

□学生へのメッセージ
各自目的を持ち、見学を行いましょう。
規律を守り、楽しい課外活動にしましょう。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
3～4	見学実習	関連業界の工場、ショールーム、店舗などの見学や実習、ならびに展示会に参加して、見聞を広げる。

科目名	化粧品の成分学			担当教員		結城　久美子		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	化粧品・健康食品販売員教育担当として販売員の接客・知識・技術の指導を行う傍ら、教育用資材の作成・店舗運営を４年間経験。接客・店舗運営の知識を包括的に伝え、即戦力となる人材の育成を目指す。						

□位置付け

化粧品の成分について詳しく学び、数多くある化粧品の違いなどを理解し、肌の特徴やお悩みに合わせた最適な化粧品をアドバイスできることなどを学ぶ科目である。

□授業の目的

この授業では化粧品の成分について詳しく学習します。この学習を通じて数多く存在する化粧品の違いを理解し、肌やお悩みに合わせ最適なお手入れ方法とアイテムの選択ができるようになることを目的としています。

□授業の到達目標

・成分を見て製品の特長について説明ができる。
・顧客の悩みに応じてスキンケアやメイクの適切なアドバイスができる。
・日本化粧品検定２級取得を目指す。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		20
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	50
	平常の授業状況（　　）	30
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験だけではなく授業態度、出席状況を総合的に評価します。積極的に参加しましょう。

□学生へのメッセージ

身の回りにある化粧品に興味を持ち成分を見てみましょう。
成分を見て買う習慣がつくと知識はより身につきます。
パッケージやキャッチコピーと成分を比べてみることも楽しいですよ。

□テキスト

日本化粧品検定２級・３級対策テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	検定について、３級ｗｅｂ受験
2	皮膚の構造	皮膚の構造や機能
3	スキンケア	季節やお悩みに合わせたお手入れ方法
4	メイクアップ	お悩みに合わせたメイクアップテクニック
5	内的要因①	ホルモンバランス、ストレス
6	内的要因②	マッサージ、睡眠
7	検定対策①	練習問題、解説
8	検定対策②	練習問題、解説
9	成分解析①	クレンジング
10	成分解析②	洗顔
11	成分解析③	化粧水
12	成分解析④	乳液、クリーム
13	ケーススタディー	お悩みや肌質に合わせた化粧品・メイクの提案
14	総復習	まとめ
15	定期試験	

科目名	レベルアップメイクⅠ			担当教員		中野　薫		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

即実践できる接客のための応用メイクやスピードアップメイクなど、より高度な美容技術を習得するための科目である。

□授業の目的

実習することにより、学習した知識をより深めることが出来る。
相モデルで実習することにより、即実践に結びつく。

□授業の到達目標

●接客のためのメイク技術を習得すること
●スピードアップ
●応用メイクをするための技術を習得すること

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習により技術力を養うが、評価は試験だけでなく普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方なども考慮する）

□学生へのメッセージ

お客様はみなさま違った顔ですので、基本とバリエーションのメイクを実践出来るようにしましょう。
友達の顔を借りるなどして、普段からの練習が大切です。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	メイクバリエーションⅠ	顔立ちに似合うメイク　※以下すべて相モデル
2	メイクバリエーションⅡ	雑誌メイク
3	メイクバリエーションⅢ	若・老けメイク
4	メイクバリエーションⅣ	ハロウィン仮装メイク
5	メイクバリエーションⅤ	女優なりきりメイク　石原さとみになる
6	メイクバリエーションⅥ	女優なりきりメイク　菜々緒になる
7	メイクバリエーションⅦ	意地悪・いい人メイク
8	メイクバリエーションⅧ	流行メイク
9	リクエストメイクⅠ	リクエストメイク
10	メイクバリエーションⅨ	なりきりメイク　男性
11	メイクバリエーションⅩ	ファッションに合わせたヘアメイク
12	メイクバリエーションⅪ	イメージに合わせたヘアメイク
13	リクエストメイク	テーマ設定メイク
14	リクエストメイク	テーマに沿ったメイク
15	定期試験	

科目名	レベルアップメイクⅡ			担当教員		中野　薫		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

即実践できる接客のための応用メイクやスピードアップメイクなど、より高度な美容技術を習得するための科目である。

□授業の目的

実習することにより、学習した知識をより深めることが出来る。
相モデルで実習することにより、即実践に結びつく。

□授業の到達目標

●接客のためのメイク技術を習得すること
●スピードアップ
●応用メイクをするための技術を習得すること

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	60
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習により技術力を養うが、評価は試験だけでなく普段の授業の中での技術も含める。（取り組み方なども考慮する）

□学生へのメッセージ

お客様はみなさま違った顔ですので、基本とバリエーションのメイクを実践出来るようにしましょう。
友達の顔を借りるなどして、普段からの練習が大切です。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	メイクバリエーションⅠ	顔立ちに似合うメイク　※以下すべて相モデル
2	メイクバリエーションⅡ	雑誌メイク
3	メイクバリエーションⅢ	若・老けメイク
4	メイクバリエーションⅣ	ハロウィン仮装メイク
5	メイクバリエーションⅤ	女優なりきりメイク　石原さとみになる
6	メイクバリエーションⅥ	女優なりきりメイク　菜々緒になる
7	メイクバリエーションⅦ	意地悪・いい人メイク
8	メイクバリエーションⅧ	流行メイク
9	リクエストメイクⅠ	リクエストメイク
10	メイクバリエーションⅨ	なりきりメイク　男性
11	メイクバリエーションⅩ	ファッションに合わせたヘアメイク
12	メイクバリエーションⅪ	イメージに合わせたヘアメイク
13	リクエストメイク	テーマ設定メイク
14	リクエストメイク	テーマに沿ったメイク
15	定期試験	

科目名	トータルビューティ			担当教員		中野　薫		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

見た目だけでなく、心身の美しさを磨いて自分を知って生かすことや自信をもって伝えていく総合美を身につけていく科目である。

□授業の目的

ビューティとは、見た目だけではなく、トータルのバランスが整ってこそ生きるもの。
自分を知って生かすことや自信を持って伝えることが出来るようになることが目的である。

□授業の到達目標

総合的なビューティを通じて、自分と向き合い知ること。
心身の美しさを磨く方法を知り、実践すること。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	10
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験	40
	平常の授業状況（授業態度）	30
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

試験だけでなく、普段の授業の取り組む姿勢を重視します。

□学生へのメッセージ

ビューティアップの結果も大切ですが、美しくなることを通じて自分と向き合い、プロセスも楽しんでいきましょう。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	自分の特徴を知る	エゴグラムチェック
2	美しい行動とはⅠ	25ヶ条　＋　課題　・　エゴグラム個別アドバイス
3	学生生活でのマナー	シーン別マナー　ディスカッション
4	美しい行動とはⅡ	課題フォロー
5	ファッションⅠ	イメージとファッション　骨格による似合うファッション
6	ファッションⅡ	雑誌を使ってコーディネート
7	マッサージ	リンパマッサージ
8	ツボ	リフレクソロジー
9	ネイル	ネイルケア
10	言葉の遣い方Ⅰ	言葉遣い　敬語
11	言葉の遣い方Ⅱ	伝わる伝え方　あとよし話法
12	ウォーキングⅠ	正しい姿勢、歩き方のクセを知る
13	ウォーキングⅡ	歩き方を整える
14	ウォーキングⅢ	ショープロデュース
15	定期試験	ファッションショー

科目名	社会人としてのマナー＆コミュニケーション			担当教員		中野　薫		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	フィニッシングスクールで３年間講師として勤務、その後独立しトータルビューティーカウンセラーとしての 20 年間の実務経験をもとに生きた内容を伝えていきます。						

□位置付け

周りの人とのコミュニケーションを円滑にし、自信をもって社会人になれることを学ぶ科目である。

□授業の目的

アクティブラーニングをしながら、初めての社会に向けて
マナー・コミュニケーション・ホスピタリティーを学ぶ

□授業の到達目標

感謝の気持ちを養いストレスを軽減し、
周りの人とのコミュニケーションを円滑にし、自信を持って社会人になれること

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		20
試験等	提出物	20
	作文	
	随時試験	
	定期試験	30
	平常の授業状況（　　）	30
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・普段の授業の取り組む姿勢を重視します

□学生へのメッセージ

・社会人になるということに不安があると思いますが、この授業で学ぶと自信がついて不安が軽くなるのでしっかり習得していきましょう。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	発言・聴く	自分の意見を言う･人の意見を聴く　ディベート
2	マナーとは	マナーとは？　行動の理由を知る
3	自己分析	人からされて嫌なこと・嬉しいこと・ストレスにしない物事の見方
4	思いやり・ホスピタリティー	人の気持ちになってみる
5	言葉の遣い方マナー	敬語だけではない言葉遣い
6	マナーⅠ	昔の人から学ぶマナー
7	マナーⅡ	マナー　こんな時どうする？ディスカッション
8	マナーⅢ	マナー　こんな時どうする？結果
9	自分の価値観・人の価値観Ⅰ	テーマ別　価値観についてディスカッション
10	自分の価値観・人の価値観Ⅱ	テーマ別　価値観についてディスカッション
11	ホスピタリティーⅠ	人からしていただいていること
12	ホスピタリティーⅡ	感謝の気持ちを伝える　ディスカッション
13	ホスピタリティーⅢ	恩返し・恩送り
14	ホスピタリティーⅣ	人が喜ぶことをしてみる計画
15	試験	

科目名	手話Ⅰ			担当教員		高須　一美		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	手話通訳士としてＴＶ、政見放送、講演会、病院、学校等での通訳業務20年以上。現場で役立つ技術を指導していきます。						

□位置付け

聴覚障害者とのコミュニケーション方法の一つとして、手話の基本的な技術を身につける科目である。

□授業の目的

聴覚障がい者のコミュニケーション方法の一つである「手話」の基本的な技術を身に付ける。
聴覚障がいについての理解を深める。

□授業の到達目標

簡単な会話が手話でできるようになる。
相手の伝えたいことが理解できる（手話が読み取れる）力をつける。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験（実技）	80
	平常の授業状況（授業中実技）	10
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験と授業中の実技を統合して見ていきます。
（手話の基礎技術）

□学生へのメッセージ

まず、出席をして下さい。そして一緒に手を動かし、身につけて下さい。ゆっくり一年かけて「学んで良かった」と思える講義を目指します。

□テキスト

「わたしたちの手話　学習辞典」全日本ろうあ連盟

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	手話とは何か・挨拶の表現	手話の成立や歴史を知る。挨拶に使う手話表現を学ぶ。
2	名前の表現・地名の表現	学生一人ひとりの名字の表現・地名の手話を学ぶ。
3	指文字（50音）	指文字の表現を学ぶ。
4	聴覚障がいとは	ＤＶＤを見て聞こえない世界を考える。
5	人物表現	家族に関する手話を学ぶ。
6	趣味・仕事	自分の趣味を表現する。仕事に関する手話を学ぶ。
7	数詞	数の表現。　日付や時間を表現できるようになる。
8	時制についてⅠ	曜日の表現を学び、短文を表現する。
9	〃　　Ⅱ	今日、明日、昨日、来週、来年等の表現を身に付ける。
10	疑問詞Ⅰ	何、どこ、どちら
11	〃　Ⅱ	いつ、いくつ、いくら、何故、どうやって
12	歌に手話を付ける	歌に手話を付けて表現してみる。
13	自己紹介	今まで学んだ手話で自己紹介をしてみる。
14	前期のまとめ	試験対策。１～13回目までのまとめ 。
15	定期試験	

科目名	手話Ⅱ			担当教員		高須　一美		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	手話通訳士としてＴＶ、政見放送、講演会、病院、学校等での通訳業務20年以上。現場で役立つ技術を指導していきます。						

□位置付け

聴覚障害者とのコミュニケーション方法の一つとして、手話の基本的な技術を身につける科目である。

□授業の目的

前期（手話Ⅰ）で身に付けた技術を基に、テキスト記載の単語や例文を応用して表現できるようになる。

現場で使える手話を身に付ける。

□授業の到達目標

自然に手話を表現できるようになる。
対人コミュニケーション方法として、実践性の高い技術として身に付ける。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		10
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	定期試験（実技）	80
	平常の授業状況（授業中実技）	10
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

定期試験と授業中の実技を総合して見ていきます。

□学生へのメッセージ

毎回、復習をしながら少しずつ積み上げていきましょう。
現場で役立つ手話を一緒に考え、身に付けていきましょう。

□テキスト

「わたしたちの手話　学習辞典」全日本ろうあ連盟
プリント

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	前期の復習	夏休み中のブランクを埋めるべく復習
2	職場で使える手話	日常会話として接客に役立つ手話を覚える。
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	災害時の手話	災害が起きた際に役立つ声掛けの手話を学ぶ。
7	単語の数を増やす	知っている単語を増やし、日常会話として表現する。
8	ＤＶＤを読み取る	ＤＶＤを見て手話を読み取ってみる。
9	〃	〃
10	絵本を手話で	絵本を手話語りできるようになる。
11	〃	〃
12	手話技能検定	手話検定の問題にチャレンジする。
13	〃	〃
14	前期・後期のまとめ	一年間の内容を振り返り試験対策
15	定期試験	

科目名	売り場のグラフィックデザイン演習			担当教員		上田　都美江		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	チーフデザイナーの役職にも就き企業のデザイン室に８年勤務。その後デザイン研究所を 25 年以上主宰。ディスプレイや商品企画デザイン・テレビ CM 制作の経験をもとに現場で役立つ技能を基礎から教授します。						

□位置付け

お客さまの視覚心理を理解して、売り場でのディスプレイやレイアウトを考え、売り上げ増の効果などを学ぶ科目である。

□授業の目的

・ディスプレイの重要性を理解し、実践に向けての知識を得る。
・画材や素材の知識を基に、目的に合ったグラフィックデザインを体得する。

□授業の到達目標

・職場で生かせる技能を習得することを目標とする。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	－
	レポート	－
	随時試験	20
	定期試験（実技）	50
	平常の授業状況（授業中実技）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
随時試験は授業ごとの制作で判断する。

□学生へのメッセージ
楽しく制作をしながら理解していきましょう。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ
テーマに応じてその都度指示する。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	全て実技で課題を制作する。
2	タイポグラフィの応用①	
3	タイポグラフィの応用②	
4	視覚心理について	
5	画材の技法と演習①	
6	画材の技法と演習②	
7	画材の技法と演習③	
8	素材研究①	
9	素材研究②	
10	素材研究③	
11	立体ディスプレイ①	
12	立体ディスプレイ②	
13	立体ディスプレイ③	
14	立体ディスプレイ④	
15	定期試験	

科目名	介護保険制度の仕組みと流れ			担当教員		内藤 麻紀		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	医療事務員として、訪問診療も行うクリニックで3年間勤務。 実務経験をもとに分かりやすく丁寧に教授する。						

□位置付け

介護保険制度の仕組みを学び、介護保険に関連する調剤報酬の請求業務を学ぶ科目である。

□授業の目的

介護保険制度の仕組みについて学ぶ
介護保険制度における調剤薬局の役割について学ぶ

□授業の到達目標

・社会保障制度における介護保険制度の位置づけの理解
・介護保険制度の全体像の理解
・介護保険制度のサービスの種類、保険請求額と利用者負担額の算定の理解

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		20
試験等	提出物	
	レポート	
	随時試験	
	定期試験	70
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

3分の2以上の出席を単位認定の最低ラインとします。

□学生へのメッセージ

介護保険における調剤薬局の役割を学びます。
・持ち物：電卓

□テキスト

介護事務テキスト　テキスト1・２・資料ブック
株式会社ソラスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護保険制度の概要	介護保険制度のしくみ
2	介護サービス	介護サービスの種類と内容、提供機関
3	介護サービスのしくみ①	支給限度額のしくみ・給付管理業務
4	介護サービスのしくみ②	請求と支払いのしくみ・介護報酬の特徴と原則
5	居宅サービス①	居宅サービスの算定①
6	居宅サービス②	居宅サービスの算定②
7	居宅サービス③	居宅サービスのレセプトの書き方
8	支援サービス	支援サービスの算定
9	福祉施設サービス①	福祉施設サービスの算定①
10	福祉施設サービス②	福祉施設サービスの算定②
11	保健施設サービス	保健施設サービスの算定
12	療養施設サービス	療養施設サービスの算定
13	地域密着型サービス	地域密着型サービスの算定・他制度との関係
14	利用者負担	主治医意見作成料・利用負担の徴収
15	定期試験	筆記試験

科目名	病院の仕組みと流れ			担当教員		三宅　かおり		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	病院、クリニックに医事課職員として約 10 年勤務。医療機関での実務経験をもとに指導します。						

□位置付け

医療機関の分類、組織、診療の流れ、医科レセプトの違い、患者の動線や心理などを理解し、医薬分業における役割分担などを学ぶ科目である。

□授業の目的

・日本の医療体制の仕組みの中での医療保険制度や医療機関の役割について理解し、医薬分業の方針と調剤薬局・ドラッグストアの位置づけを把握する。
・医療機関の分類とそれぞれの役割分担、病院組織と各職種の業務について理解する。
・診療の流れ、患者の動線、各職種と患者の関わり方を知り、患者心理を理解した対応ができるようになる。

□授業の到達目標

・医療業界・病院組織の仕組みと流れがわかる。
・調剤報酬で学んだ知識を活かし、診療報酬のレセプト作成に挑戦し、その概要について理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		15
試験等	提出物	—
	作文	—
	随時試験	—
	定期試験	80
	平常の授業状況（授業態度）	5
	その他（　　）	—
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間数の 2/3 以上の出席を満たさない場合は失格となり、単位は認定できません。

□学生へのメッセージ

・医療業界全体の構造を知り、保険医療の仕組みの中における調剤薬局の位置づけを理解しましょう。
・医科の診療報酬の概要について理解し、調剤報酬との違いを把握しましょう。
・医療に関連する様々な仕事、職種について興味を持ちましょう。

□テキスト

・決まり次第お知らせします。

□参考図書・資料・参考ホームページ

・授業内で適時紹介します。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	学習の目的・学習内容・導入
2	病院・医療業界の基礎知識	医療機関の分類
3	健康保険	保険診療・保険調剤
4	医療機関のしくみ①	医療機関の組織・部門・病院の職種とキャリア
5	〃　②	病院の職種とキャリア・医療業界の新しいながれ
6	医療保険制度	公的医療保険制度
7	診療報酬の基本①	出来高方式と包括支払い方式
8	〃　②	外来と入院
9	〃　③	基本診療料・投薬
10	〃　④	レセプト作成
11	〃　⑤	〃
12	〃　⑥	〃
13	〃　⑦	〃
14	まとめ	まとめ
15	定期試験	定期試験

科目名	介護レクリエーション演習			担当教員		武石　稔弘		単位数	2
対象学科	くすり・調剤事務			学年	２年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	
実務経験教員	○	実務経験内容	社会福祉法人の特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護で介護職員および生活相談員として５年間勤務した。介護現場で介護レクリエーションを担当していた立場から、介護レクの支援について指導する。						

□位置付け

介護の基本的な知識、高齢者とのコミュニケーションの方法や支援法、高齢者のレクリエーション（re-creation（再構築）、肉体的・精神的な疲れをいやし元気を取り戻すための運動などの）支援などを学ぶ科目である。

□授業の目的

レクリエーション介護士２級を取得する過程で、介護の基本的な知識と高齢者とのコミュニケーションの方法、高齢者に対する支援の方法、高齢者のレクリエーション支援の方法を身につける。

□授業の到達目標

・介護レクリエーション、レクリエーション介護士の意義・役割を理解する。
・介護保険制度、介護スタッフ、介護事業所について理解する。
・高齢者に対する現場での支援の方法を理解する。
・レクリエーションの企画と計画、実行と見直しができる。
・安全管理と実行の際の留意点を理解する。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		30
試験等	提出物	30
	作文	－
	随時試験	－
	定期試験	30
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・日本アクティブコミュニティ協会が指定するレクリエーション介護士２級のカリキュラムを履修します。合格するには出席時間数と筆記試験、企画書課題の合格基準を満たす必要があります

□学生へのメッセージ

・合格できるように、指示された課題について、的確に行いましょう。合格基準を満たすと終了から１カ月後程度後に協会から自宅に合格証が送付されます。

□テキスト

・レクリエーション介護士２級公式テキスト
＜第３版＞

□参考図書・資料・参考ホームページ

・一般社団法人日本アクティブコミュニティ協会
https://www.japan-ac.jp/

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護レクの意義と役割	介護レクとレク介護士、意義と役割、行われる場所と時間、姿勢
2	介護の基本的な知識	介護保険制度、介護スタッフ、介護事業者
3	高齢者に対する支援の方法	高齢者のこころと身体、高齢者支援のポイント、接し方
4	アイスブレイク体験	アイスブレイクとは、アイスブレイクの内容
5	レクの企画と計画	介護事業所でのレク、計画事例、レクを企画・計画する
6	レクの企画と計画	グループでレクを企画・計画する
7	レクの企画と計画	企画したレクを発表する
8	レクの企画と計画	企画したレクを発表する
9	レクの実行と見直し	実施後の施設への報告
10	レクの実行と見直し	アレンジの方法、アレンジのポイント
11	安全管理と実行の際の留意点	安全に対する配慮、レク実施前の心構え、ハプニングの対処方法
12	レクを体験する	すぐに実践できるレクを体験する
13	レク企画書を作成・提出	協会に提出するレク企画書課題を作成・提出　60 点以上で合格
14	認定試験対策	認定試験のポイントを確認する
15	認定試験	選択式 50 問、公式テキスト持ち込み可、１問２点、60 点以上で合格